

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドクト]

acueducto

La revista española en Japón

特集1

サルバドール・ダリ

Salvador Dalí

特集2

スペインフェア2014開催レポート

¥0

GRATIS/第18号

31-agosto-2014

www.acueducto.jp



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

基礎からしっかり学ぶ!スペイン語レッスン
話せる楽しさを実感しながら、スペイン語を身に付けよう!

新規開講入門クラスのご案内(各クラス定員4名)

【一般コース 全12回/入門クラス】

(2014年9月開講)

月曜日 18:30-19:20 / 2014年9月1日~11月17日

火曜日 17:30-18:20 / 2014年9月2日~11月18日

金曜日 20:30-21:20 / 2014年9月5日~11月21日

土曜日 11:30-12:20 / 2014年9月6日~11月22日

★教材費:1,944円 受講料:44,160円(分納可)

入会金 16,400円 OFF !!

(2014年9月末まで)

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじめての方でも安心してスタートできます!各クラス定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申しください。

無料体験レッスンのご予約はお電話で承ります。

TEL 06-6346-5554

新規開講コースの日程が合わない方、その他の曜日や時間をご希望の方はお気軽にお問合せください。

また、学習経験者の方は是非一度レベルチェックを兼ねた無料体験レッスン(要予約)をお試しください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。

ADELANTEはスペイン語
スペイン語はADELANTE

【お問合せ】 スペイン語教室アデランテ 06-6346-5554
www.adelante.jp info@adelante.jp

スペイン情報誌acueducto

定期購読のご案内

スペイン情報誌acueductoでは、定期購読をご希望の方に、送料をご負担頂き、ご自宅までお届けしております。ご希望の方は、右の4項目を明記し、ファックス、郵送、E-mailのいずれかでお申込みください。(お届けはお申込書提出・ご入金後となります。)

① 氏名 ② 電話番号

③ ご住所 ④ 必要部数

【お申込先】

1. 郵送の場合

大阪市北区梅田2-5-8

千代田ビル西別館2F

有)ADELANTE 宛

2. ファックスの場合 06-6110-5122

3. E-mailの場合 info@acueducto.jp

【送料】1,200円(1年間:4号分)

スペイン・バスク料理会

美食の街として知られるサン・セバスティアン出身の講師が、家庭でも簡単に作れる料理を伝授します!

【日時】2014年10月19日(日)11時~16時頃

【場所】クレオ大阪北 クラフト調理室 【参加費】4,000円

【持ち物】エプロン、三角巾、ふきん

【アクセス】淡路駅(阪急線)東出口から南東へ徒歩約10分

【住所】大阪市東淀川区東淡路1-4-21

【お申込方法】10月18日(土)までに参加費とあわせてお申しください。

※参加人数に限りがありますので、定員になり次第締め切りとなります。

【お問合せ】有限会社ADELANTE TEL:06-6346-5554



スペイン留学セミナー



www.spainryugaku.jp

www.スペイン留学.jp

email: info@spainryugaku.jp

TEL: 06-6346-5554

いつかスペインに留学してみたいな...と考えるあなたへ!

スペインの都市・学校・コース、滞在方法、費用、学生ビザ、準備方法などをスペインに留学経験のあるスタッフが詳しくご説明いたします。是非お気軽にご参加ください!セミナー後、個人カウンセリングもご予約承ります。

【日時】 1. 9月15日(月・祝) 11:00~
2. 9月23日(火・祝) 11:00~
3. 10月13日(月・祝) 11:00~

(セミナー所要時間 約40分 - その後個別カウンセリング)

【場所】スペイン語教室アデランテ

〒530-0035 大阪府大阪市北区梅田2-5-8-2F

※参加ご希望の方は、必ず事前にお電話にてお申しください。

【お申込・お問合せ】有限会社ADELANTE / TEL:06-6346-5554



Avanzamos

A1

www.adelante.shop.jp

【お問合せ・ご注文は】

有限会社ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8

千代田ビル西別館2F

TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

E-mail: info@adelanteshop.jp

1,944円(税込)



本書は、初めてスペイン語に触れる方を対象とした入門者向けスペイン語テキストです。プライベートレッスン、グループクラスの両方で使用可能。8課から構成され、A1レベルに相当する口答表現、文章読解、聞き取り、読解の4技能を伸ばしながら、2セメスター(1年間)かけて学習できるため、大学でのスペイン語の授業にも最適です。カラフルな写真やイラストが多く使われ、スペイン語学習に自然に親しむ事ができるよう視覚およびコミュニケーションに重点を置いて作られています。このテキストの終了時には、完璧ではないものの、現在完了を使って過去を表現し、[ir a + 不定詞]を使って未来を表すことができるようになります。



ESPECIAL 特集	5
シュルレアリスムの巨匠 サルバドール・ダリ SALVADOR DALÍ 天才、奇人、狂人... 巨匠サルバドール・ダリの生涯 / 巡礼の旅～スペイン・カタルーニャ紀行～ / 画家ダリを創造した女性ガラ イベントリポート SPAIN FAIR 2014	
MÚSICA 音楽	21
ギター文化館(Palacio de la Guitarra)とマヌエル・カーノのギターコレクション	
ESPAÑOL スペイン語	26
はじめてのスペイン語講座 第18回 関係詞の使い方 / スペイン語講座(XVIII) 様態を表す副詞の用法について	
GASTRONOMÍA グルメ	30
10年目のスペイン料理フォーラム 一食文化を語る街、函館からー	
FLAMENCO フラメンコ	36
Flamenco en Japón	
HISTORIA 歴史	38
スペイン内戦が生んだ「ロバート・キャパ」(4)	
VARIOS その他	40
スペインのお勧めパルルレストラン 第8回 LA HERMANDAD DE PESCADORES JATETXE(エルマンダス・デ・ペスカドーレス・ハテチエ) / 西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介 / スペイン日本研究学会第2回国際会議「ハボン」さんの故郷を訪ねて	
LIBROS 本	43
スペイン関連書籍 書評	



スペイン情報誌 acueducto

Director:
Shoji Bando 坂東省次

Editor:

Alejandro Contreras
アレハンドロ・コントレラス

Maquetación y diseño:

Sachi Yamakage 山陰さち
Ayako Wakita 脇田絢子

Colaboradores:

Yo Kawanari 川成洋
Kuniyoshi Nakai 仲井邦佳
Mari Watanabe 渡辺万里
Shizuka Shimoyama 下山静香
Yuji Shinoda 篠田有史
Kaname Ikemoto 池本かなめ
Elena Contreras エレナ・コントレラス
Mikel Berradre ミケル・ベラデレ
Jesús Martín ヘスス・マルティン
Mai Fukudome 福留麻衣

ADELANTE Co., Ltd

2FL, Chiyoda Bldg. West Annex
2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

有限会社アデルンテ

〒530-0011

大阪市北区梅田2-5-8

千代田ビル西別館2F

Tel: 06-6346-5554

Fax: 06-6110-5122

email: info@acueducto.jp

www.acueducto.jp

本誌の無断複製(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本誌の内容および広告に関しては、発行元の責任の限りではありません。



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第18号をお届け致します



En el puente de la primera semana de mayo, viajé con mi mujer por primera vez a Urabandai, en la provincia de Fukushima, donde todavía quedaba nieve. El objetivo de este viaje era visitar el Museo Contemporáneo de Morohashi, famoso por poseer la colección de los cuadros de Salvador Dalí, uno de los pintores españoles más destacados que tiene numerosos seguidores en Japón. El día que visitamos el museo se celebraba la exposición "LOVE STORY: Dalí y cinco cuentos de amor" con motivo del 110º aniversario del nacimiento del pintor, así como del 15º aniversario de la inauguración del museo, con lo que desde muy temprano muchísima gente visitaba el museo.

En las relaciones hispano-japonesas, el interés por la pintura comenzó hace muchas décadas: en la época Meiji, el pintor japonés Hiroshi Yoshida viajó por España y materializó una obra titulada "El Palacio de la Alhambra". Múltiples cuadros que pintaron los grandes maestros españoles como El Greco, Velázquez, Goya o Picasso nos han fascinado gracias a varias exposiciones celebradas en Japón.

Aunque no sé cuántos museos existen en todo Japón, no serán pocos los que cuentan con cuadros procedentes de España, como por ejemplo el Museo Prefectural de Nagasaki. Realmente extraordinario es el museo de Morohashi, que se centra solamente en los cuadros de un pintor español. De ahí que la existencia de este museo sea absolutamente valiosa y espero que siga progresando con los cuadros de Dalí.

Shoji Bando
Director

5月の連休に家内と、まだ雪の残る福島県の真磐梯にはじめて旅した。旅の目的は、スペインの画家サルバドール・ダリの充実したコレクションで知られる諸橋近代美術館の訪問であった。スペインの画家の中でも異彩を放つダリファンは日本にも多く、同美術館を訪れた日は、「ダリ生誕110年・開館15周年記念展 LOVE STORY—ダリ5つの愛の物語—」の開催中でもあり、朝早くから入場者が途絶えなかった。

日本とスペインの交流の中でも、絵画の分野での交流は歴史が古く、明治時代から吉田博ら日本の画家がスペインに旅して、アルハンブラ宮殿などの作品に残っているし、エル・グレコ、ベラスケス、ゴヤ、ピカソの四大巨匠に代表されるスペイン絵画は数々の美術展を通じて多くの日本人を魅了してきたことはいうまでもない。

日本にはいったいどれだけの数の美術館があるのか知らないが、スペイン絵画を所蔵する美術館は決して少なくはなく、たとえば長崎県立美術館などはその好例であろう。しかしながら諸橋近代美術館のようにスペインの一人の画家に特化した美術館は他には存在しないのではないだろうか。それだけに同美術館の存在は貴重であり、ダリとともに常に進化を続けることを期待している。

坂東 省次

坂東省次 ばんどうしゅうじ / Shoji Bando

京都外国語大学スペイン語学科長・教授。

京都セルバンテス懇話会代表。

専攻はスペイン語学、日西交流史。

近著に『スペインを訪れた作家たち』(沖積舎)がある。



www.facebook.com/acueducto.japon



@acueducto_japon

Colaboradores:



スペインのエッセンスが詰まった セビリアとカディスで語学留学

- 語学教育と講師養成コース等で世界的に定評のある**International House**及び**EQUALS**メンバー校
- 1週間の短期から長期までご希望のコース期間が選択可能
- **DELE**試験開催校(年3回)として安心と信頼の**DELE**対策コース
- 現地日本人スタッフによる安心のサポート



CLIC International House Sevilla y Cadiz

クリック・インターナショナルハウス・セビリア&カディス

Email: japan@clic.es (日本語どうぞ) **www.clic.es/jp** (日本語サイト)



【特集】

シュルレアリスムの巨匠

サルバドル・ダリ

上向きにピンとはねた髭がトレードマークのサルバドル・ダリ。

スペインが誇るシュルレアリスムの代表的な作家で、現在も世界中で根強い人気を集めています。

自らを「天才」と呼んで憚らず、その奇行や逸話が語り継がれているダリの独創的な人生や作品を紹介します。



天才、奇人、狂人… 巨匠サルバドール・ダリの生涯

諸橋近代美術館 学芸員 大野方子

「天才」「奇人」「狂人」——数々の呼称と共に 20 世紀を代表する芸術家として名を馳せた芸術家がありました。シュルレアリスムの巨匠、サルバドール・ダリです。緻密な描写で非合理的な世界を表現したダリの作品は、活躍当時のアートシーンを賑わせるのみならず、彼の死後四半世紀が経過した現在も変わらずに、見る者へ大きな衝撃を与えて記憶に留まります。その制作背景には、ダリの故郷スペインの風土が色濃く漂います。日本国内において最大規模のダリコレクションを誇る諸橋近代美術館の収蔵作品と共に、スペインが輩出した稀代の人物、ダリをご紹介します。

写真右 サルバドール・ダリ
Image Rights of Salvador Dalí reserved. Fundació Gala-Salvador Dalí, Figueres, 2014.
©Bettmann / CORBIS / amanaimages



左・図1 《画家の母の肖像》

右・図2 《アナ・マリア・ダリの肖像》
ともにサルバドール・ダリ

©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí,
JASPAR Tokyo, 2014



❖ 天才の誕生

サルバドール・ダリは 1904 年 5 月 11 日、スペインの北東部カタルーニャ州の沿岸都市フィゲラスに生まれます。ダリの父親、ドン・サルバドール・ダリ・イ・クシは公証人であり、フィゲラスの有力者としても名高い人物でした。支配的な父とは対照的に、母親のフェリーパ・ドメネクはダリの我儘を受け入れて甘やかしていたと言われています。そして 4 歳下の妹アナ・マリアは、家族の中でもダリと非常に近い存在であり幾度となく作品のモデルを務めています。(図1、図2)

一家にはもう一人の男児が存在していました。ダリの兄にあたるその子供は、ダリ生誕の約 1 年前、病のために幼くして世を去ったと言われています。彼の名はサルバドール。ダリに授けられたものと同じ名前を持つ子でした。スペイン語で「救世主」を意味する名ですが、長男の死を受け入れることが出来なかった両親にとってダリはまさしく救いの存在であったのでしょう。幼い頃から両親の期待を背負い、自身の存在と表裏一体となった兄を思いながら、ダリは死への強迫観念に囚われる日々を送りました。悲しき出生の秘密ですが、皮肉な事にこれが後のダリ作品に確固たる特徴を付随させ、ダリ自身の異常なまでの自己顕示欲を成立させたのです。

❖ ダリが愛した土地、カダケス、ポルト・リガト

ダリを語る上で切り離せないのが、カダケスとポルト・リガトです。カダケスはフィゲラスよりおよそ 40 キロ東に位置する小さな村です。現在は観光地としての知名度も確立していますが、漁師小屋が立ち並び、入り江に幾多のボートが船舶するなど、かつてアンチョビ漁で栄えた漁村としての名残が強い土地です。ダリの父イ・クシはこの地の出身者です。一家は夏の別荘をカダケスに所有し、ダリも幼少の頃からカダケスで休暇を過ごしていました。カダケスの入り江、ポルト・リガトでは潮風にさらされて風化した奇岩が至る所に点在します。おびただしい数の凹凸が付いたものや奇妙な形の穴が開いた岩は、見る角度によって異なる姿を見せます。この光景はダリの脳裏に焼き付き、やがて「ダブル・イメージ」という表現に形を変えて作品に反映されました。ダブル・イメージとは、だまし絵の手法の一つになります。一つの物体を観察し続けていると他の形に見えてくる、視点を変わると隠された他の物が姿を現すといった、人間の脳の働きを利用したトリックです。ダブル・イメージはダリ作品に欠かすことのできないエッセンスとして、作品の随所に現れています。(図3、図4)

1921 年、ダリはマドリードのサン・フェルナンド王立美術アカデミー入学のために故郷フィゲラスを離れたのち、更なる能力の研鑽と新たな発展を求めてフランス・パリへ赴きます。1926 年にアカデミーを去って故郷に戻ったダリは、ポルト・リガトの老朽化した漁師小屋を購入してアトリエに改築し、創作活動の拠点としました。



左・図3 《アン・ウッドワード夫人の肖像》

右・図4 《ピキニの3つのスフィンクス》
ともにサルバドール・ダリ

©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí,
JASPAR Tokyo, 2014



ダリの他にも、ポルト・リガトに魅了されこの地を愛した芸術家がありました。パブロ・ピカソ (1881-1973) とジョアン・ミロ (1893-1983) です。(図 5、図 6) 両者ともにフランスでの活動が取り上げられがちですが、ダリと同じくスペインの出身者です。ミロはダリの作品を一目見るために、わざわざパリから画商を引き連れてポルト・リガトを訪れています。作品を大層気に入ったミロは、この若き才能を余すことなく発揮させるためにダリをパリで活動させることに奔走しました。ダリの芸術的才能がいかに素晴らしいものかをダリの父に説き、パリでの暮らしを了承させたのです。ピカソは同郷の芸術家の才能を評価し、ダリを出版社へ紹介して挿絵の制作を仲介したり、1934 年にはアメリカへの渡航資金を工面するなど金銭的援助を伴う関係を築いてダリを支援しました。ピカソの援助による初渡米の後、数回に渡りアメリカを訪れたダリは、第二次世界大戦の戦禍を避けて亡命したニューヨークで生活します。しかし 1948 年にスペインへ帰国して、ポルト・リガトに移り住みました。以後、世界各地を巡りながら精力的に活動をする中でも、一年間の内でまとまった期間は必ずポルト・リガトに滞在して制作に励んだと言われています。ポルト・リガトはダリの創作の拠点であり、愛する風景に囲まれた安息の地でもあったのです。



左・図 5 《画家》パブロ・ピカソ ©2014-Succession Pablo Picasso-SPDA(JAPAN)

右・図 6 《ふくろうを捕まえる女》ジョアン・ミロ ©Successió Miró-Adagp, Paris & JASPAR Tokyo, 2014



上・図 7 《テトゥアンの大会戦》
サルバドル・ダリ
©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí,
JASPAR Tokyo, 2014

下・図 8 《テトゥアンの戦い》
マリアノ・フォルトゥニー

✿ ダリ渾身の大作《テトゥアンの大会戦》

ダリの作品の中でも屈指の逸品が、1962 年の絵画作品《テトゥアンの大会戦》です。縦 3 メートル、横 4 メートルという巨大な画面もさることながら、カンヴァスの上に繰り広げられた戦いの様子は、「圧巻」の一言に尽きます。(図 7) テトゥアンはモロッコ北部の地中海側に位置する町で、スペイン領として治められた歴史を持つなどスペインと縁深い土地です。「テトゥアンの会戦」とはモロッコ・スペイン戦争中の 1860 年、テトゥアンにおいて起こった戦いの名称です。作中で戦場を駆け抜けるモロッコ兵の中には、ダリお得意のダブル・イメージで実に様々な数字が羅列されています。その最前線で、戦士に扮し馬に跨るダリと妻ガラの間には「5」「7」「8」、つまり制作期間中のダリの年齢「57」「58」が記されているのです。「芸術界という戦場で作品を残し続けること、これは即ち戦いなので

ある。」このように語ったダリにとって、《テトゥアンの大会戦》はまさに芸術家人生の縮図ともいべき作品です。ダリは 14 歳当時、スペインはバルセロナ、カタルーニャ美術館でマリアノ・フォルトゥニー (1838-1874) の作品、《テトゥアンの戦い》を鑑賞しています。(図 8) この作品は、フォルトゥニーが州政府の依頼を受けて戦闘の様子を克明に記録したものです。先人の大作から多大なる感銘を受けたダリは、いつか同じ主題の作品を世に出すべく構想を温め、この歴史的な戦いを芸術家としての表現上の戦いに変換して《テトゥアンの大会戦》を制作しました。スペインが関与する歴史的な出来事とともにダリの生涯を描いた、渾身の一点です。



1



2



3

1、諸橋近代美術館
2・3、彫刻ホール

✿ 諸橋近代美術館

福島県の景勝地、裏磐梯の朝日国立公園内に位置する諸橋近代美術館は、いわき市出身の実業家 諸橋廷蔵 (1934-2003) が二十余年をかけて蒐集した西洋近代以降の作品を収蔵しています。その中でもダリ作品のコレクションは絵画・版画・彫刻を合わせて 340 点と、アジア圏でも有数の規模を誇ります。現在、開館 15 周年記念「Episode15 〜コレクションの軌跡〜」展を開催中です。同展では、スペイン・フィゲラスのダリ劇場美術館における廷蔵とダリ作品との出会い、ダリコレクション収集にかけた飽くなき情熱のエピソードと共に、当館の 15 年間の軌跡をご紹介します。

【美術館・問い合わせ先】

公益財団法人 諸橋近代美術館
福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峰 1093-23
TEL:0241-37-1088 ホームページ :<http://dali.jp>

8月1日～
9月30日

学割優待キャンペーン「裏得（うらとく）」

学生証の提示とアンケートへの回答で観覧料金が無料となります。

是非この機会をご活用ください。

また 10月13日 (月・祝) には

「野口英世記念 ぼんだい高原国際音楽祭 2014」

が開催されます。数々のダリ作品とともに、
裏磐梯で豊かな文化をお楽しみください。



大野方子 おおのまさこ / Masako Ono

1988 年熊本県熊本市生まれ。2011 年、同志社大学文学部美学芸術学科を卒業。同学において西洋美術史を専攻。2013 年より学芸員として諸橋近代美術館に勤務。同館所蔵のダリコレクションの研究・調査を中心に、作品収集、展示の企画構成などに携わる。

ダリ巡礼の旅 ～スペイン・カタルーニャ紀行～

諸橋近代美術館 館長 諸橋英二



ダリが愛し描いたカタケスから望む風景

「見よ!サルバドール・ダリの誕生だ! 風は凪ぎ、五月の空には一片の雲もない」

サルバドール・ダリ「わが秘められた生涯」1981年

ダリの110回目の誕生日となる今年の5月11日、私はダリの生まれ故郷スペインのフィゲラスにいました。フィゲラスにはダリが設立したダリ劇場美術館があり、今回の訪問の目的はその美術館にあるダリ財団とのミーティングでしたが、併せてダリの故郷カタルーニャ地方取材してきました。ダリ作品の背景の多くはカタルーニャの風景が描かれ、ダリの芸術を生み出したのもカタルーニャの独特の地方文化といわれます。今回、訪れたのはダリの生まれ育ったフィゲラス、アトリエと住居のあるポルト・リガト、晩年に愛妻ガラへ贈ったブボル城があるジローナの3か所です。それでは‘ダリ巡礼の旅’に出かけましょう。

今回の旅の拠点にしたのはフィゲラス。フィゲラスはスペイン第2の都市バルセロナから北東に電車で2時間（今回は特急のAVEで約40分で到着）ほどにある小さな街です。まず出向いたのはダリ劇場美術館に隣接するサン・ベレ教会。この教会はダリが子供の頃初めて洗礼を受けた思い出の場所です。館内は、尖頭アーチのゴシック建築による独特の重厚感があり、外界の眩しい日差しと喧騒とは対照的に闇の中で静かな時間が流れています。荘厳と静寂が織りなす空間で少年ダリはいったい何を思ったのだろうか、そんな思いにふけりながら教会を後にしました。

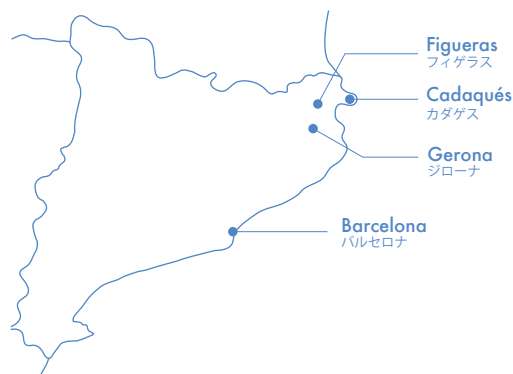
次に訪れたのはダリのアトリエ兼住居のあるポルト・リガト。フィゲラスから東へ路線バスで1時間ほどのカダケスに向かい、さらにバス停から海沿いと小高い丘を歩いて30分ほどでダリのアトリエが見えてきます。そこから見える眺望は、永遠に伸びる水平線、この地域独特の石垣、オリーブ畑、強い太陽光線が生み出す鋭い影。この美しいポルト・リガトの風景に魅せられたダリは26歳から晩年にわたり7軒の漁師の家を買い上げ、自分好みに改装しながらこの家に住み、作品を描き続けたのです。屋根の頂きには卵のオブジェがあり別名「卵の家」とも呼ばれています。建物の中は、ダリとガラが収集したオブジェや骨董品などで装飾されて、とりわけダリの写真や記事が部屋中に張られた部屋は「ショーマン」と呼ばれた自己顕示欲の強いダリの性格が象徴されていて印象的でした。ポルト・リガトから更に北東へ約8キロ進むとクレウス岬という景勝地があります。断絶壁の崖には風化によって奇妙な形をした岩が連なり不思議な空間が広がります。奇岩は見る角度により動物や怪物のようにも見え、実に様々な表情を見せます。ダリが何度となくこの地を訪れインスピレーションを得たことを、ここに来て納得したのでした。



1、ダリが洗礼を受けたフィゲラスのサン・ベレ教会
2、カダケスのオリーブ畑
3、カダケスのダリのアトリエ近くの石壁



カダケスのダリのアトリエ兼住居
4、卵がトレードマーク
5、通称「卵の家」の外観



場所はフィゲラスに戻りダリの生家を訪れます。ビルの一角にある生家は、現在は商店街の空き店舗になっていて、特に目立った生家の表示もなく地元でもダリの生家と知る人は少ないそうです。その生家の前には大きな広場があり、毎週2回ほど市場が開かれ多くの店と客で賑わいます。「食べることは生きること。」野菜、果物に肉、豊富な食材とみなぎる活気を目のあたりにしたダリはカタルーニャの食文化に「生と死」を垣間見たのかもしれませんが。

生家から徒歩で20分ほど行くとダリ少年の遊び場であったサン・フェラン要塞があります。1766年に建設されたヨーロッパ最大の要塞で、フィゲラスの誇りでもありました。ここからはアンブル平野からポルト・リガトの海岸までが一望でき、ダリが好んで描いた風景が広がります。また要塞の建物や城壁は複雑な形状で構成されていて、ダリ少年の創造の源泉となったと思われます。



6、フィゲラスにあるダリの生家 7、ダリの生家の前にある市場。豊富な食材と人々の活気がみなぎる 8、ダリが幼少の頃の遊び場、サン・フラン要塞。アンブルダグ平野が一望できる



9、お馴染みフィゲラスのダリ劇場美術館

10、ダリ劇場美術館の天井画。ダリに寄り添うガラ

そして、この要塞と生家の中間地点にダリ劇場美術館があります。同館はもともと劇場として建てられた建物で、ダリが15歳のときに描いた印象派風の絵画2点を展示した思い出の場所でもあります。その後、ダリは当時のスペインの国家元首フランコ将軍に直談判してこの建物を入手し美術館に改装し、1974年ダリ劇場美術館として開館させたのです。館内はまさに「ダリワールド」。車内に雨が降るタクシー、リンカーンとガラの後ろ姿が二重像（ダブルイメージ）で見える大絵画、部屋全体が女性の顔にも見える「メイ・ウエストの部屋」などがあり、美術館というよりも体感型のアミューズメントパークといった施設です。その中でもダリの想いが強い作品が大広間の天井画です。バロック風の天井画はダリとガラが天に召されていく壮大な構図で、その隅には年老いたダリとガラが寄り添うように描かれています。しかし、晩年のダリとガラの関係は良好とは言えず、この美術館が開館した時もガラはこの天井画を見ること無く立ち去り、ダリは非常に寂しい思いをしたそうです。



11、ダリ劇場美術館の床にダリの棺が埋められている



12、ブボル城の地下にある2つの棺。右側の棺にガラだけが眠る

出張こぼれ話



「ガラとロブスターの肖像」
©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, JASPAR Tokyo, 2014

今回の出張ではスペインの他にロンドンのクリスティーズを訪れ、新たに当館で購入しましたダリの油彩絵画《ガラとロブスターの肖像》(1934年頃)を実際に確認してきました。30歳ダリの自信に満ちた筆跡、鮮やかに彩られたガラの横顔、素晴らしい作品です。来春には皆さんにご覧頂けるとしますので、是非、楽しみにしてください。



諸橋英二 もろはしえいじ / Eiji Morohashi

1970年福島県いわき市生まれ。1994年日本大学文学部卒業。米国ボストンにて語学留学後、英国ロンドンのクリスティーズモダンアートスタディーズにて西洋近代美術史を、サザビーズインスティテュート(マンチェスター大学大学院課程)にて現代美術学を専攻。1999年、財団法人諸橋近代美術館開館と同時に常務理事・館長に就任。現在、国内唯一のダリ常設美術館の常務理事兼館長兼学芸員として多岐にわたる業務に携わる。

最後に訪れたのは愛妻ガラへ贈ったブボル城があるジローナです。このジローナは中世に栄えた町で、郊外には豪邸が点在しています。ダリは、その屋敷のひとつを買取り大改修してガラへプレゼントしました。当時、ダリ65歳、ガラ74歳。建物は決して大きくはなく、建物の中も晩年のダリとガラを象徴するかのように地味な装飾です。地下室にはガラとダリの2つの棺が並べられていますが、入っているのは先立ったガラだけ。ダリの遺体は前述のダリ劇場美術館のエントランスに埋葬されています。ガラはここのお城に若い男性2人と同居し、ダリはここのお城の入口までしか入ることを許されなかったそうです。不可解な関係を象徴するかのような二つの棺の部屋は冷たく静かな空間でした。

今回訪れたダリゆかりの地には、全てにおいてダリ作品同様、一度見たら忘れられないほどの強く不思議な印象がありました。それは長年変わらない風景であり、独特の文化をもつカタルーニャ地方の土壌にあるかもしれません。ダリはカタルーニャ人として誇りをもち、郷愁を誘う景色を生涯愛し続けました。ダリを生んだカタルーニャは、望郷の念を呼び起こしてくれる土地でした。

画家ダリを 創造した女性ガラ

サルバドール・ダリが 20 世紀を代表する世界的に有名な画家であることに異論を挟む人はおそらくいないでしょう。フィゲラスにあるダリ劇場美術館に世界中から観光客が押し寄せ、様々な国でダリ展が開催されていることがその証と言えるのではないのでしょうか。そのようなダリですが、自らの力で著名な画家としての地位や名声を手にしたわけではありませんでした。もちろん、若い頃から画家としての技能は卓越していましたし、彼の力によるところも幾らかはあるのですが、繊細で内気な性格のダリが自分の力で画家としての未来を切り開いていくことは困難でした。そんなダリを支え、一人前の画家へと導いたのが、1929 年に出会い後に妻となるガラです。

1929 年 4 月、パリで詩人ポール・エリュアールと知り合いになったダリは、その年の夏の休暇をカダケスで過ごすようエリュアールを招待します。その招待を受け、7 月にエリュアールとともにカダケスにやって来たのが当時エリュアールの妻だったガラでした。ダリがガラに一目ぼれたのとは反対に、ガラのダリに対する第一印象は「我慢できないほどいやらしいアルゼンチンタンゴダンサーめいた伊達男」だったといえます。しかし、ダリと接するにつれ、ダリが持つ精神的な危うさや画家としての天賦の才能を知ることとなり、ガラのうちにダリを癒しその才能を解き放ちたいという欲求が芽生えていきます。ダリより 10 歳年上のガラは「私の坊や!わたしたち、もう離れられないわ。」と言い、以後ダリと生活をともにするようになります。

傲慢、貪欲、色情狂など芳しくない評判の多いガラですが、ダリとの共同生活を始めてから暫くの間は非常に献身的でした。ダリの「偏執狂の批評的方法」を携えてパリでシュルレアリスムの中心人物アンドレ・ブルトンに積極的にダリを売り込んだのも、ダリの絵を売ろうと熱心に画廊や社交界に働きかけたのもガラでした。二人が居を構えたポルト・リガットでは貧しいなか工夫を凝らして食事を作り（これは以前のガラには考えられないことでした。）、ダリに様々な助言を与え、「あなたは天才よ。」と励まし続けました（これは以前のガラにも見られたことですが。）。1930 年代のダリ作品には傑作が多数存在しますが、それらが誕生するのに大きな役割を果たしたのは、紛れもなくガラでした。ダリは後年インタビューで「芸術面でのガラの影響は?」という質問に対し、「それまで自分は月並みだと考えていた僕にガラは自信を与えてくれました。彼女は僕の才能を見抜いていたのです。」と答え、「ガラに感謝していることは?」という問いには「全てです。」と答えています。

ガラの献身の甲斐もあり、ダリは徐々に社会的にも経済的にも成功を収めていきました。ダリ作品を収集する複数のコレクターの存在により、ガラはダリの作品を売るために奔走する必要がなくなり、自分に自信をつけたダリは人前で雄弁に話をする社交界の人気者となっていきました。このような変化は二人の関係にも変化をもたらし、以前ほどダリの世話をする必要がなくなったガラは、1940 年代半ば頃から公然と浮気を繰り返すようになりました。1950 年の《ポルト・リガットの聖母》以降、ダリはしばしばガラを聖母や聖女の姿で描きましたが、そこには崇高な存在としてガラを描くことによって、二人の関係の変化を正当化しようとするダリの考えが込められているかのようです。そのような二人の距離は、1960 年代に入りダリの周囲で騒々しいパーティーが繰り返されるようになると、ますます広がっていきました。

1974 年 9 月 23 日、フィゲラスのダリ劇場美術館が開館しました。この頃、ダリとガラは一緒に行動することはほとんどなく、開館当日もダリは友人のアマンダ・リアと、ガラは愛人のジェフ・フェンフォルトとともに美術館を訪れました。ガラはかつてダリに対して行なったのと同じように若い愛人を励まし、その才能を開花させることに情熱を注いでいました。ダリに対する興味を失ったかのように見えるガラですが、アマンダ・リアが「もし、私の身に何かあれば、ダリの面倒を見るとあのアイコンに誓ってほしい。」とガラに迫られたと回想していることから、ガラがダリのことを気にかけて続けていたことを窺い知ることができます。

1982 年にガラが亡くなった時、ダリは「人生の舵取りを失った。」と言って嘆き悲しみ、1984 年に大やけどを負うまでガラが埋葬されたプボル城で過ごしました。作品によくガラの姿を描いたダリは、「ガラだけが現実だった。ガラの肖像画を描くことが私の仕事であり、私の思想であり、私の現実だった。」と述べています。

文・写真 内田千重子



1	2
3	4
	5

- ガラとダリの寝室
- ホルト・リガットのガラとダリの家
わずか4メートル四方の漁師小屋を改装して住み始めた家は、その後拡張工事を繰り返し、複雑な構造を持つ大きな家となった。
- カダケスの入江
1929年7月にガラとダリが出会ったこの町は、終生ダリにとってガラと並ぶ靈感源だった。
- 《20メートル離れるとアブラハム・リンカーンの肖像に変貌する地中海を見つめるガラ》
フィゲラスのダリ劇場美術館のドーム左側に展示されている。
- 図書室
ダリが創作活動や昼寝をしている間、ガラはよく本を朗読していた。



内田千重子 うちだちえこ / Chieko Uchida

愛知県立大学非常勤講師。専門はスペイン美術（サルバドール・ダリ研究）。スペイン留学中に観たダリ展に感銘を受け、ダリ研究の道を志し、現在に至る。趣味は美術館巡り・街歩き。



El pintor catalán, nacido en Figueres en 1904, fue uno de los máximos exponentes del surrealismo, con un dominio de la técnica fuera de lo común y una creatividad desbordante. En compañía de su inseparable Gala construyó un personaje y un universo sorprendentes y geniales.

«A los 18 años se marchó a Madrid para estudiar en la Academia de Bellas Artes de San Fernando. Vivió en la Residencia de Estudiantes y se hizo amigo de personas que después también fueron famosas: Federico García Lorca, poeta, y Luis Buñuel, director de cine. Conoció muchas formas de pintar: el cubismo, el futurismo, el fovismo, pero él quería crear su propio estilo.»

«En París descubrió el surrealismo, un movimiento que partía del mundo de los sueños y de la creación sin intervención de la razón. Cuando volvió a la escuela de San Fernando lo expulsaron porque se enfrentó a los profesores acusándolos de no saber nada de pintura. Volvió a Figueres y empezó a pintar imágenes fantásticas que nacían de sus sueños y que mostraban un mundo imaginario muy original. Pintaba personas que se sostenían con muletas, cuerpos con cajones, elefantes con patas de araña...»

1904年にフィゲラスで誕生したこのカタルーニャ人画家は、並外れた技術と溢れんばかりの想像力を兼ね備えた、シュルレアリスムを代表する最高峰の一人であった。何にも代え難い最愛のガラと共に、彼は驚くような風変わりな人物と世界を造り上げた。

18歳になると、王立サン・フェルナンド美術アカデミーで学ぶためにマドリードに移った。学生寮に入り、後に名声を上げることとなる詩人のフェデリコ・ガルシア・ロルカや映画監督のルイス・ブニエルと親しくなった。ダリはキュピズム、未来派、フォービズムなど様々な絵画技法を修得したが、彼は独自の画風を求めていた。

パリでダリは夢や創造といった非合理的な世界を表現する動向、シュルレアリスムに出会った。サン・フェルナンドのアカデミーに戻ったときに、彼は先生たちに対し、絵画のことを全く理解していないと非難に対抗したため、学校から追放された。フィゲラスに戻り、自分の夢を基に幻想的な絵画を描くことを始め、非常に独創的な架空世界を表現した。松葉杖で支えられた人々、引出しのある身体、クモの足を持つ象などを描いた。

¿Qué sabes de Salvador Dalí?

¿Qué actriz norteamericana inspiró a Dalí para crear un sofá en forma de boca de mujer?

- a) Marilyn Monroe
- b) Jane Russell
- c) Mae West

¿Cómo se llama el cortometraje de animación que Dalí creó junto a Walt Disney?

- d) Destino
- e) Fantasía
- f) La sirenita

¿Dónde está enterrado Salvador Dalí?

- g) En Barcelona
- h) En Figueres
- i) En París

¿Cuál de estos elementos nunca tuvo una simbología especial en su obra?

- j) Los girasoles
- k) Los relojes
- l) Los huevos

Soluciones: c) Mae West; d) Destino; e) Fantasía; f) La sirenita; g) En Figueres; h) En Figueres, en el Teatro-Museo Dalí, donde se encuentran más de 1.500 obras suyas; j) Los girasoles.

サルバドール・ダリについて知っていますか？

女性の唇の形をしたソファ製作の発想をダリに与えたアメリカ人女性とは？

- a) マリリン・モンロー
- b) ジェーン・ラッセル
- c) メイ・ウェスト

ダリがウォルト・ディズニーと製作した短編アニメのタイトルは？

- d) デスティノ
- e) ファンタシア
- f) ラ・シレニータ

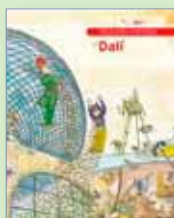
サルバドール・ダリはどこに埋葬されているか？

- g) バルセロナ
- h) フィゲラス
- i) パリ

ダリが、彼の作品において一度も特別な象徴として扱わなかったモノは次のうちどれ？

- j) ヒマワリ
- k) 時計
- l) 卵

解答: c) メイ・ウェスト d) デスティノ e) ファンタシア f) ラ・シレニータ g) バルセロナ h) フィゲラス i) パリ j) ヒマワリ k) 時計 l) 卵



Para saber más:
"Pequeña historia de Dalí"
disponible en castellano y en japonés.

www.
adelante
shop.jp

【contacto】 ADELANTE Co., Ltd.
2FL, Chiyoda Bldg. West Annex 2-5-8 Umeda Kita-ku, 5300001
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122
E-MAIL: info@adelanteshop.jp



もっと知りたい人には：

"ダリの物語り" スペイン語版・日本語版好評発売中！

www.
adelante
shop.jp

【お問合せ・ご注文は】 有限会社 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122
E-MAIL: info@adelanteshop.jp

＼ おかげさまで今年も大盛況 ／

Spain Fair 2014

in 京都外国語大学!

本年度で4回目となるスペインフェアが7月6日(日)に京都外国語大学で開催されました。当日は午後からあいにくの雨模様となりましたが、たくさんの方々にご来場いただき会場は熱気に溢れていました。

会場では、毎年好評のスペイン語書籍の販売や、手作りパエリア・本場スペイン産の生ハム、そしてスペインのビールやワインも販売。また会場内のホールではフラメンコショーも行われ、スペインの文化を堪能できる1日となりました!



paella y jamón

パエリアと生ハム

会場で来場者の目を引いたのは、特大のパエリア! 約50人前のパエリアができる巨大なパエリア鍋を使って豪快に調理します。立ちのぼるおいしい匂いがたまりません。パエリアの横にはスペイン産生ハムもスタンバイ。切り落としたての生ハムはひと味違います!



＼ ¡Qué rico! おいしい! ／



bebidas

飲み物



スペインで人気の Mahou ビールやリンゴのお酒シードラの他、シェリー、スペイン産のワインもたくさんご用意しました。パエリアや生ハムとの相性も抜群です！

会場はたくさんの来場者でいっぱい！

actividades

ワークショップ



スペインタイルアート工房によるスペインタイルの絵付けワークショップ



libros y más...

書籍・グッズ

毎年好評の書籍販売。スペイン語学習のための教科書や問題集、スペインの小説や本がたくさん並びます。またサッカー公式グッズやスペインにちなんだ雑貨も販売しました。

sorteos

抽選会

今年も抽選会を実施！スペインの語学学校 Enforex や don Quijote の1週間のクラス受講チケットや、トルコ航空のスペイン往復チケットが当たる豪華景品に会場は大盛り上がり！



flamenco フラメンコ

京都外国語大学の構内にある森田記念講堂ではフラメンコショーが行われました。関西にある人気のフラメンコスタジオが集結！フラメンコギターの音色と華麗な衣装、そして迫力ある演技が観客を惹き付けます。



1・4. Yuno フラメンコ教室
2・5. フラメンコスタジオ MIGUELON
3・6. フラメンコスタジオ ルイサ

actuación
de guitarra

ギター演奏



ギター奏者フェリックス氏（スペイン マジョルカ島生まれ）のギター演奏。モーツァルトやベートーベンのクラシックの名曲をエレクトリックギターで。目隠しをして演奏するパフォーマンスも。



¡Muchas gracias a todos!

Nos vemos el próximo año

ご来場いただいた皆さん、
ボランティアの皆さん、
ありがとうございました！
また来年お会いしましょう！

Agradecimiento a ...

京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

<スペインフェア印象記>

スペインフェア2014に参加して

第4回スペインフェアは、7月6日（日）にこれまでとは趣向を変えてはじめて京都で行われた。場所は京都外国語大学の構内にある森田記念講堂である。同大学が毎年恒例の行事として学内でやっている「スペイン・ラテンアメリカ ウィーク 2014」の締め括りのイベントとして、一般参加者対象の「スペインフェア 2014」も参画することになり、同大学の協賛を得たことで本年の会場がこれまでの大阪から京都へ移されたというのがその経緯だ。

当日は空模様が怪しく、心配しながら会場へ向かった。開始時間は例年より遅く昼過ぎだった。大通りに面した講堂の玄関前広場にテントが張られ、限られたスペースをうまく活用して店のエリアと客席が配置されていた。通りがかりの人でもぶらりと立ち寄れるので場所の設定は最高だった。酒食については、飲物はともかく食物はパエリアとハモンセラーノに特化していた。スペインの食文化を標榜するフェアではないので、これはこれで十分だと思った。パエリアはネイティブの料理人が腕を振る、特大の専用平鍋ふたつを使って参加者の目の前で準備されていた。ごはんがやわらかく仕上がりとってもいい味を出していた。ちなみに筆者は気に入って代わりをした。

そのうちにやはり雨がぱらつきはじめ、やがて本降りとなり、参加者は講堂内の玄関ホールに急ぎょ設けられたテーブル席へ移動して酒食を楽しむこととなった。結果的に、そこはネイティブの人たちを含め参加者が互いにコミュニケーションを取る絶好の場に変身した。

一方、800人収容の本格的な舞台装置と音響装置が完備された素晴らしい講堂内では、20～30分の休憩をはさんで出し物のフラメンコやギター演奏が行われ、そのたびにみんな酒食の場所から移動して楽しんだ。最も人気があったのは抽選会で、メイン賞品は昨年に続きスペイン往復航空券だが、サラマンカとマドリッドでの短期留学の学費免除クーポン二人分も加えられた豪華版だった。今年は抽選会への参加は無料で、観客の座席番号で当たるというユニークな方式がとられた。たまたま当たり番号が空席で該当者がおらず、何度も抽選が繰り返されたことがかえってみんなに期待感を膨らませ、興奮に満ちたひと時となった。

例年通り書籍やスペインの雑貨品販売、それにスペインタイルの絵付けワークショップも行なわれ、イベントスタッフの人たちの機敏な動きも相俟って、時間的制限と雨にもめげずみんな思うままにフェアを楽しんでいる様子だった。

最後に、参加者の立場でひとこと付け加えると、観客席に座って出し物や抽選会などを楽しむのもよいが、参加者が能動的に参加できるプログラムをもっと行事全体の中に取り入れるとさらに愉快的イベントになると感じた。スペインフェアを息の長い恒例行事にするには、ファンやリピーターを増やすことが大事だ。それには苦心や苦労はあろうが、次回は参加者を驚かせ、喜ばせる工夫を見せてもらいたい。

伊藤嘉太郎

日西商業会議所 Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介します。

スペイン語、 ワイン、 そして地方文化

ワインテイスティングや語学が、今までとは全く違った形で学ぶことが出来るようになった。ポルトガルのピノ・ベルデで知られる地方との境、ガリシア地方のアルバリ・ニョの美しいブドウ園の中、ミニョ川とデバ川に挟まれた美しい谷で、6人以下の少人数制で曜日を問わず行われている。

クラスはブドウ園や伝統的な石造りの家で行われる。そして壮麗な眺めのなか、wi-fiやデジタルボード、テレビが完備されている。

講習のテーマは（それぞれ4時間）、ワインテイスティング、ブドウ園での仕事、ワイナリー、この地方のガストロノミー、ワインとのマリアージュである。講習はレベルの向上とワイン専門用語をマスターする為にスペイン語で行われる。また、クラスは各人の目的やスペイン語の知識に合うようデザインされる。

そして、トルゴのブドウ園が一望できる、丹念に修復された別の石造りの家に、お手頃価格で宿泊も可能である。宿泊代には朝食とウエルカムドリンクとしてトルゴのワイン1本が含まれる。

伝統的な美味な食事にぴったり合う上品な地のワインを楽しみに、ポントベドラへ足を延ばしてませんか？

www.serandetorgo.com



スペイン情報誌 季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5



お問い合わせ先

日西商業会議所 / Cámara de Comercio Hispano Japonesa

www.camarajaponesa.es/jpn

camara@camarajaponesa.es ☎ (+34) 91 851 12 11

✉ Apartado 10124 - 28080 MADRID - SPAIN



ギター文化館 (Palacio de la Guitarra) と マヌエル・カーノのギターコレクション

文・吉川二郎 (コンサートフラメンコギタリスト)

ギター文化館 (Palacio de la Guitarra) は、スペインが生んだコンサートフラメンコギターの巨匠であり、ギターコレクターとしても著名であったマヌエル・カーノ・タマーヨ Manuel Cano Tamayo (1925-1990) のギターコレクション (18 台) を収めるため、1992 年に茨城県石岡市 (旧八郷町) に建設されました。マヌエル・カーノは生前、18 世紀のパロック・ギターなどの珍しい楽器も収集していましたが、「私のレオナ」と名づけて特に愛用していたアントニオ・デ・トーレス Antonio de Torres (1817- 1892) 制作のギターや、トーレスの影響を受けたその後の名器の数々は、ファンにとって一度は見てみたいギターコレクションです。

アントニオ・デ・トーレスは 19 世紀に活躍したスペインのギター制作家で、それまでヨーロッパ各地でさまざまな発達を遂げていたギターを研究し、長所をまとめて現在のギターの原型を作り上げました。ギターの共鳴胴の内部にある力木と呼ばれる表面板の補強材の配置を変えるなどして音量を飛躍的に増大させ、少人数を対象にした伴奏楽器の地位から、多くの聴衆を満足させられるコンサート用の楽器に変身させました。また、ピアノの発達とともに、チェンバロやリュートなど、それまで主流だった楽器が廃れゆくなか、現代のギターの理想とされている“繊細で色彩感に富み、心に沁み込んでゆくような甘さを秘めた響き”を確立させ、スペインにおいてギターの伝統が残ったことに、アントニオ・デ・トーレスのギターが果たした歴史的な役割は大きいといえます。

コンサートスタイルのフラメンコギタリストであったマヌエル・カーノは 4 度来日し、日本全国でコンサートを行ないました。日本との交流が深まるとともに、日本を愛し続けたマヌエル・カーノは「自分のギターコレクションは、是非日本で生かして保存すること」に夢を描いていました。来日 2 度目の 1983 年から、1986 年、1988 年と 3 度に渡ってマヌエル・カーノを日本に招聘し、各地での公演を実現して強いきずなを築いていた東京労音は、1990 年 1 月にマヌエル・カーノが急逝するとすぐ、「マヌエル・カーノ記念音楽事業団」を設立、その記念事業としてマヌエル・カーノ所有のギターコレクションを購入し、楽器を保管展示する「ギター文化館」の建設を企画、2 年後の 1992 年に完成させました。マヌエル・カーノは生前、アメリカの博物館からギターコレクション購入の要望があった際、「私のギターコレクションが博物館の陳列ケースに、弾かれない状態で保管されることは望まない」と、申し出を断っていたそうです。この思いを生かし、ギター文化館では、ギターの歴史が解る様々な楽器を展示し、同時に館内にはギター製作工房も備えています。抜群の音響効果を持つ音楽ホールでは、内外の一流ギタリストによる、コレクションの銘器を使用したコンサートも開催されています。このような総合的な設備を持つ「ギター文化館」は、世界に誇れるギターの殿堂として、石岡市の小高い丘の上で輝いています。



1. ギター文化館 正面入り口 2. マヌエル・カーノ・タマーヨ Manuel Cano Tamayo 3. アントニオ・デ・トーレス Antonio de Torres
4・5・6. ギター文化館のマヌエル・カーノ・ギターコレクションと丸いドームの音楽ホール

ビスニエト・デ・トーレス (BisnietodeTorres) について

ギター制作の世界では通常、弟子を育てて技術を伝えていきますが、アントニオ・デ・トーレスには後継者がいませんでした。生活は決して裕福でもなかったようで、その余裕がなかったのかも知れません。しかし、アントニオ・デ・トーレスの魂は受け継がれていました。

1982 年 2 月、私がマヌエル・カーノに師事するため 1 か月間の予定で 2 度目のスペインに行ったとき、帰国の直前にアルメリアから車を飛ばしてきた友人を紹介してくれました。ホアン・フランシスコ・サルバドル・ヒメネス (Juan Francisco Salvador Giménez) と名乗り、アントニオ・デ・トーレスの曾孫だと紹介されました。ギター制作を始めたとのことで、その第 1 作目を携えていました。マヌエル・カーノがギター制作のアドバイスをしていたとのことでしたが、このギターが初めて作った 1 本目ということではなく、マヌエル・カーノが世に出してもいいと認めた 1 本目だったようです。結局、そのギターは私が譲ってもらうことになりましたが、記念すべき第 1 作のこの楽器は“*Soñada* (夢のギター)”と名付けられ、その名前がラベルに記されていました。制作者名は本名が記されていましたが、これ以後のギターにはトーレスの曾孫として「ビスニエト・デ・トーレス Bisnieto de Torres」と記すようマヌエル・カーノからアドバイスがありました。

1990 年に師マヌエル・カーノが心筋梗塞で亡くなってからは、アルメリア郊外の小さな町 (La Cañada de San Urbano) に住んでいたビスニエト・デ・トーレスと親しく交流するようになり、毎年スペインへ通っては、彼の家で数日を共にし、アルメリアの各地を案内してくれ、私にとっては多くの曲を作る糧となりました。この町にはアントニオ・デ・トーレスの生家があり、彼の家はこの生家からほんの 50m しか離れていないと自慢げでした。ビスニエト・デ・トーレスは本当にまじめな性格で、スペイン人には珍しく冗談を言うことはほとんどありませんでしたが、一緒にいて疲れるという気難しさはなく、本当に楽しい日々でした。そんな彼を 2006 年に夫人同伴で日本に招待しました。神戸と富士の 2 都市でのコンサートを企画、ゲストとして客席で座る彼を、「私が演奏しているギターの制作者であり、現代ギターの父、アントニオ・デ・ト

レスの曾孫です」と聴衆に紹介、実に誇らしい瞬間でした。懐れの富士山を仰ぎ、曾祖父のギターがあるギター文化館にも連れて行きました。

ビスニエト・デ・トーレスが日本に来てから 3 年後、2009 年の大晦日、夫人から電話があり、夫が肺がんに侵されていることを伝えてきました。彼は時々アルメリアから私の家や携帯に電話をくれ、元気な声を聞かせてくれていましたが、年末の病気の知らせは、その直前に幸せを願うクリスマス・メールが届いていただけに寝耳に水の出来事でした。すでに深刻な状態だったので、ドイツの友人に相談して入院治療を受けましたが、治療の成果なくスペインに帰国、大晦日に電話を受けてから約 3 か月後の 4 月 2 日、帰らぬ人となりました。享年 64 歳でした。

ビスニエト・デ・トーレスは、普段は指物師としての仕事を持ち、何人もの職人を雇って、大きなホテルやビルの木部内装工事を請け負うなどの仕事をしていました。仕事を終えて家に帰ってから、こつこつとギターを作る生活を送っていたので、生涯の制作本数は極端に少なく、約 30 年間で 30 本を数えるだけです。7 年ほど前、スペインで一流の制作家のギターが多く集まる展示会に出展したことがあり、ギタリストたちの間で「ギター制作の天才が現われた」と噂されていたそうです。若い頃に、木工が得意であったことから友人にギターの修理を依頼され、これがきっかけでギターの制作を始めたとのことでしたが、ギター制作に関してはほとんど独学で、なおかつすべての工程を一人でこなしていました。アントニオ・デ・トーレスの再来と言われるほどに期待されたビスニエト・デ・トーレスは、亡くなる前年に内装工事の会社を整理し、これからギター制作に全力を傾けるべく、多分死ぬまでに作り得るであろう本数のギター用木材を買い揃えた矢先ががん宣告を受け、あっという間にこの世を去ってゆきました。現在、アルメリア郊外の自宅工房には高級なギター用木材が作り主のいないまま眠っています。



1



2



3

1. ギター文化館で曾祖父のギターを抱えて
2. 2006 年日本へ招待。夕刻、ホテルのテラスから富士山を望む
3. ビスニエト・デ・トーレスの工房にて



アルメリア市内にできたギター博物館

昨年、アルメリア市内にギター博物館 Museo de la Guitarra が完成しました。アルメリア出身のアントニオ・デ・トーレスを記念しての博物館です。スペイン全体の問題でもあります、「市の財政事情が厳しく、立派な建物は出来たがまだ内部まで充実しているとは言えない」と、関係者の言葉です。しかし、これまでアルメリアにアントニオ・デ・トーレスを記念するギター博物館がなかったことが不思議なくらいで、今後は現代のアルメリアのギター制作家にも焦点を当てて運営していきたいとのことでした。

私はこのギター博物館に、多くの素晴らしい出会いを作ってくれたマヌエル・カーノ先生とホアン・フランシスコ・サルバドール（ビスニエト・デ・トーレス）の思い出を留めておくために、まだ演奏に使っている楽器ですが、ビスニエト・デ・トーレス第1作目の“Sonada”を近いうちに寄贈しようと思っています。

第8回 フラメンコギターの祭典

ギター文化館で
ギター三昧の二日間



「第8回フラメンコギターの祭典」の演奏参加者

ギター文化館では、9月20日（土）、21日（日）に「昔取った杵柄をギターの殿堂で!!」を掛け声に、ギターの魅力が満喫できる『第8回フラメンコギターの祭典』が開催されます。この『フラメンコギターの祭典』はコンクールとは異なり、フラメンコギターを弾く喜びを分かち合うことを目指しています。それぞれの人が自分流に楽しみ、1日目の発表演奏会の終演後に行われる会場投票では、音楽の盛り上げ方の上手な人が高得票になったり、東日本大震災によって開催が危ぶまれた第5回では被災地からの参加者が素晴らしい演奏で最高得票を得たりと、人の心が通い合うのもまた魅力です。

この発表演奏会は課題曲も無く、誰でも気軽に腕前を披露できる愛好家のための舞台。出演は独奏または重奏（4人まで）で、演奏に対して講師と観客の投票により各賞が授与されます。ギター演奏が得意な俳優の伊吹吾郎氏が「伊吹吾郎賞（5万円）」を提供、他に「コンサートフラメンコギター協会賞（3万円）」「ギター文化館賞（賞品）」などが用意されており、夜には参加者の交流パーティがスペインワインで盛り上がります。21日午前には音楽評論家の濱田滋郎と吉川二郎による講演や演奏、午後は三澤勝弘、木南利夫、吉川二郎・野口久子、三澤敦子（カンテ）による記念コンサートが開催され、どっぴりとフラメンコギター漬けの二日間が楽しめます。現在、出場参加者、一般参加者募集中です。

詳細はギター文化館のホームページをご覧ください。

ギター文化館

<http://guitar-bunkakan.com> TEL.0299-46-2457

〔参加料金〕

出場（独奏）+両日参加 20,000円 出場（重奏）+両日参加 18,000円

出場（独奏）+1日参加 14,000円 出場（重奏）+1日参加 12,000円

一般参加（両日すべて込み）12,000円（高校生以下 10,000円）

9/21 記念コンサートのみ 4,000円（高校生以下 2,000円）

ギター文化館

〒315-0124 茨城県石岡市柴間 431-35

TEL: 0299-46-2457 FAX: 0299-46-2628

E-mail: palacio@guitar-bunkakan.com

休館日：月曜（ただし月曜が祝日の場合は火曜休館）

開館時間：10:00～18:00（最終入館 17:00）

入館料：見学のみ / 大人 300円・子供（中学生以下）無料

※コンサートやイベント開催中はご入場できない事があります。

ご来館の際は、お電話メール等でお確かめください。



吉川二郎 よしかわじろう / Jiro Yoshikawa

1951年、大阪生まれ。関西学院大学法学部卒。

1977年、スペインに渡りコンサートフラメンコギターの巨匠マヌエル・カーノに師事。

1988年、全曲オリジナルのフラメンコ曲を収録のCDアルバム『迷路』を発表。

以後、2012年発売の「インダーロ」まで10枚のアルバムを発売。

1998年、スペインで発行された「フラメンコ大百科事典」に日本を代表するフラメンコギタリストとして紹介される。

1994年、フレット付き卓上ハーブ「ギタルバ」を発案、楽器の研究を重ね、2010年から演奏活動を開始。

2003年11月、兵庫県川西市民文化賞受賞。

2004年から毎年、サラマンカ、グラナダ、コルドバ、アルメリアなどスペイン各地でコンサート活動を続けている。

スペイン留学ガイド

地方ごと異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪
あなたはスペインと言ったら何を思い描きますか？
フラメンコ、サッカー、闘牛、白い家、サグラダ・ファミリアなど…
お気に入りの街が見つければ、きっと、より充実した留学生活になること
でしょう。

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。
ここでは、代表的な留学先をいくつか紹介していますが、この他にも多くの
学校をご用意しております。

まずは、電話やメールでご相談下さい。スペイン留学.jpでは、カウンセリ
ングを行い、一人一人のご希望に合った学校を提案いたします！

※料金は1€=140円で計算した2014年8月のものです。入学金や宿泊先幹旋料、夏期
料金等が加算される学校もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。



サラマンカ

1218年に創立されたスペイン最古の大学がある学生の街。カテド
ラル、大学、貝の家、マヨール広場など美しい建物が多く、旧市街
全体が世界遺産に登録されています。

colegiodelibes
Y TU... HABLAS ESPAÑOL

<コレヒオ デリベス>

	2週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	346€ / 48,440円	2.880€ / 403,200円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	280€ / 39,200円	3.360€ / 470,400円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	210€ / 29,400円	1.860€ / 260,400円



セビーリャ

太陽と青い空が似合うスペイン南部、アンダルシア地方にある歴史
的な街。スペインの三大祭りのひとつである、春祭りでも有名です。
バスや電車で少し足を延ばすと、まるで絵ハガキのような白い村が点
在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

<クリックIH セビーリャ校>

clic

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	180€ / 25,200円	3.600€ / 504,000円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	160€ / 22,400円	3.840€ / 537,600円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	100€ / 14,000円	2.400€ / 336,000円

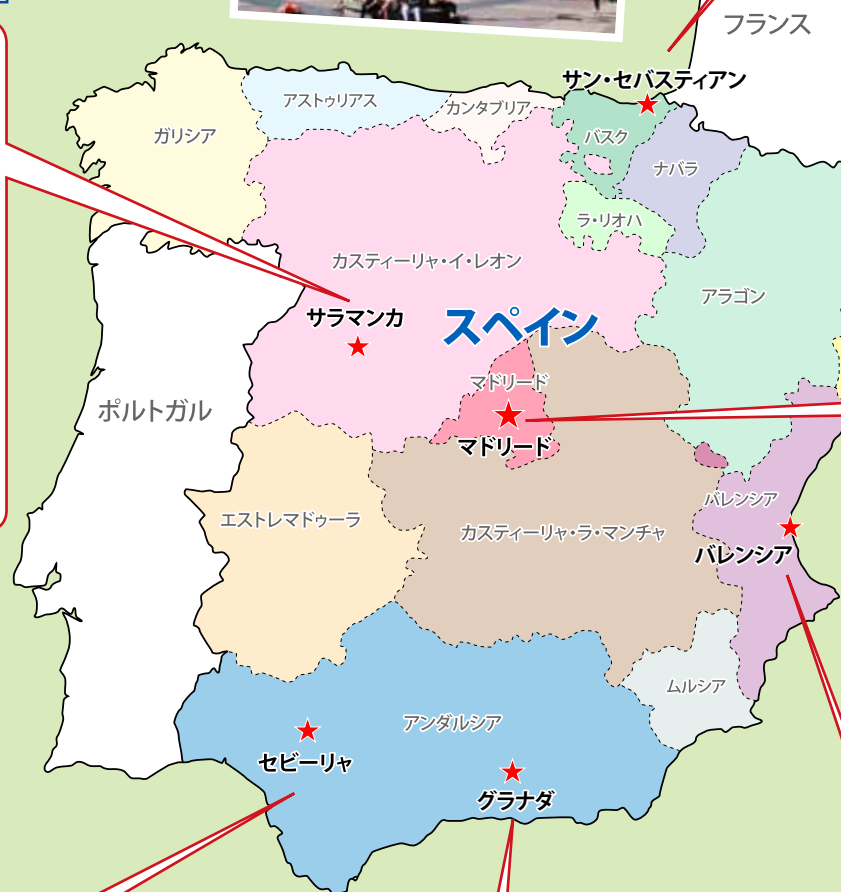
グラナダ

アルハンブラ宮殿があることで、世界的に有名なグラナダは、ア
ラブ文化の名残を残す古都。都市の規模はそれほど大きくありません
が、落ち着いた美しい町並みが素晴らしく、訪れる価値があります。

<ドン・キホーテ グラナダ校>

don Quijote

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	145€ / 20,300円	3.120€ / 436,800円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	164€ / 22,960円	3.936€ / 551,040円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	130€ / 18,200円	3.120€ / 436,800円



サン・セバスティアン

フランス国境近くに位置し、バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも賑わっています。



<ラクンサ・インターナショナルハウス>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	168€ / 23,520円	3.000€ / 420,000円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	230€ / 32,200円	5.520€ / 772,800円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	120€ / 16,800円	2.736€ / 383,040円



マドリード

世界的に有名なプラド美術館や王宮、レティエロ公園など見所がいっぱいの活気溢れる、スペインの首都。休日にはショッピングやバル巡りを楽しんだり、アート鑑賞に耽ったり・・・。

マドリードはスペインのほぼ中心に位置するため、他の都市へのアクセスも良好です。



<エストウディオ サンペレ マドリード校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	229€ / 32,060円	3.600€ / 504,000円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	205€ / 28,700円	4.920€ / 688,800円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	150€ / 21,000円	3.600€ / 504,000円

バレンシア

火祭りやパエージャ発祥の地として有名な、スペイン第3の都市バレンシア。地中海性の温暖な気候で、ビーチリゾートとしても知られています。



<コスタ・デ・バレンシア>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	175€ / 24,500円	3.085€ / 431,900円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	175€ / 24,500円	4.200€ / 588,000円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	110€ / 15,400円	2.640€ / 369,600円

ご出発までの流れ

- ① 留学カウンセリング、お見積り
「どの街にしよう?」「費用はどれくらい?」「何から準備すればいいの?」など、漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはメールや電話でお気軽にご相談下さい。
- ② 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが決まれば、留学手続代行申込書を提出
- ③ 入学手続き開始
- ④ 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
- ⑤ 学生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、在日スペイン大使館へ提出
90日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上以上の留学には学生ビザが必要です。短期学生ビザ(91日以上180日以内)取得の場合は、ご出発の約2ヶ月前、長期学生ビザ(181日以上)取得の場合は、ご出発の約3ヶ月前に時間に余裕を持って提出して下さい。
- ⑥ 留学費、海外送金手数料のご入金
- ⑦ 航空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、いよいよご出発!

<当サポートサービスの範囲>

- ・選択された学校への出願サポート
- ・サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、共同アパート等の宿泊先申込手続(混雑状況によりご希望に添えない場合がございますので、事前にご確認下さい。)
- ・留学費用の海外送金
- ・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい。
※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配等は含まれません。各自でご準備下さい。
※海外送金手数料(約8,000円)はご負担となります。

よくあるご質問

- Q** 語学プラスαでどんな事ができますか?
A フラメンコ、サルサ、スペイン料理、ワインテイスティング、ゴルフ、テニス、サーフィン、スキューバダイビング、スペインタイルなど・・・、様々な楽しいプログラムをご用意。また、50歳以上の方向けに、ゆっくりスペイン語を学び文化を楽しむコースもあります。
- Q** 留学の費用はどのくらいかかりますか?
A 主にかかる費用の内訳は、入学金、教材費、授業料、滞在費、航空券代、保険代です。学校のプログラムや、宿泊タイプ、都市によって、かかる費用は大きく違ってきます。長期留学される方向けに受講料の長期割引がある学校もあります。
- Q** どんな滞在スタイルがありますか?
A ホームステイ、共同アパート、学生寮、個人フラット、ホテルなどがあります。

スペイン留学.jpでは、ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずは、お気軽にご相談下さい。

【お問合せ】

スペイン留学.jp

URL: www.spainryugaku.jp

お電話: 06-6346-5554

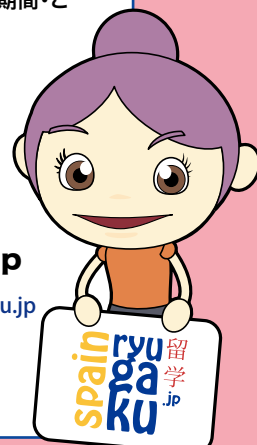
E-mail: info@spainryugaku.jp

<https://www.facebook.com/spainryugaku.jp>

いいね! をクリック!

今すぐスペイン留学の最新情報を入手しよう!

ツイッターもあります。@spainryugaku



はじめてのスペイン語講座

第18回 関係詞の使い方



HOLA みなさんこんにちは!

さて、今回は関係詞の使い方について見ていきます。

まず、「関係詞」って何でしょうか?文法などをみると、以下のような説明が書かれています。

関係詞とは:主節の中に存在するある語と従属節を結ぶ役割を果たすもの

ただ、実際に上のような説明を受けてもピンとくる方はなかなかいないのではないのでしょうか?「主節」?「従属節」?と、はてなマークが飛び交った方も安心して下さい!例を挙げながら少しずつ説明していきます。

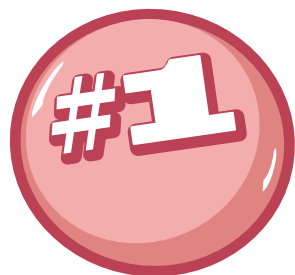
まず、今の段階では、焦らずに「関係詞を使うとより多くの情報を一つの文章の中で表現することができる。」とだけ、覚えておきましょう。

本文に入る前に、一つだけ理解しておいていただきたいのは、「関係詞」と一口に言っても、たくさんの種類があり、主に文章でのみ使われるものや、ある限定した場合にのみ使われるものもありますので、今回は、よく使われる代表的なものを選んでご紹介します。

① 関係詞《QUE》の用法

関係詞で最も良く使われるものに、queがあります。これは、物・事柄をさらに詳しく説明したり、限定したりする時に使われます。右下の絵を見て下さい。マリさんと彼女が飼っているワンちゃんがありますね。彼女の愛犬の名前は、実は桃太郎くんと言います。関係詞queを使って、次の二つの情報をまとめてみましょう。

情報その1 マリさんは犬を飼っている。 } マリさんは桃太郎という名前の犬を飼っている。
情報その2 犬の名前は桃太郎である。



では、まず、情報その1を主節にします。主節というわかりにくいかもしれませんが、文章の中心になる主語と動詞が入った部分と考えましょう。

Mari tiene un perro.

主語 動詞 目的語

情報その2を文章にすると、次のようになりますね。 El perro se llama Momótaro.

これら二つの文章を上日本語のようにつけて一つにするためには、関係詞queを使います。

Mari tiene **un perro** **que se llama Momótaro.**
※この部分が従属節となる
桃太郎という名前の

この場合、un perroはque以下に直接つながる語で、先行詞と呼ばれます。que以下は従属節となり、マリさんが飼っている「犬(un perro)」をより詳しく説明する役割を果たしています。つまり、上の文章が言いたいことの中心は、「マリさんが犬を飼っている」という事実であり、どんな犬であるかの説明がque以下に表されています。わかりやすくするために、主節と従属節を逆にしてみましょう。今度は、情報その2が主節になります。

※この部分が従属節となる

El perro **que tiene Mari** se llama Momótaro. マリさんの飼っている犬は、桃太郎という名前だ。
マリさんが飼っている(犬)

なんとなく、イメージがつかめてきたでしょうか?関係詞que以下に続く部分(従属節)は、あくまでも先行詞を詳しく説明する役割に徹しているわけです。

さて、上の文章で、もう一点覚えていただきたいのは、従属節の主語と述語の位置です。はじめの文章は、文をqueでつないで重なっている部分(un perro)を取っただけなのに対して、二つ目の文は、que Mari tieneではなく、que tiene Mariと主語と述語の位置が逆転しています。従属節の動詞の目的語が先行詞となる場合には、通常que+動詞+主語の順番に逆転させることが一般的です。

② 《前置詞 + EL QUE》の用法

次は、以下のような二つの情報を関係詞を使って表してみましょう。

情報その1 マサオさんはミキちゃんのお隣に住んでいる。 } マリさんと一緒に働いているマサオさんは、
情報その2 マリさんはマサオさんと一緒に働いている。 } ミキちゃんのお隣に住んでいる。

日本語の文章から、主節になるのが、情報その1であることがわかります。

Masao vive al lado de Miki.

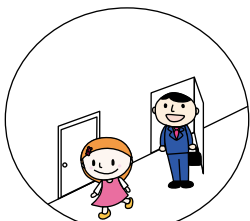
※前置詞 + el queを使う条件として、従属節のもととなる文章に前置詞がついていなければならない。

情報その2は、次のようになります。 Mari trabaja **con Masao.** この時は、「前置詞 + el que」で文章をまとめることができます。

※この《el》は先行詞に対応して変化するので注意。

Masao **con el que trabaja Mari** vive al lado de Miki.
マリさんが一緒に働いている(マサオ)

ただし、con el queのelの部分は、先行詞の性・数によってla, los, lasに変化します。



Masao con el que trabaja
Mari vive al lado de Miki.

マリさんと一緒に働いているマサオさんは、
ミキちゃんのお隣に住んでいる。

覚えましょう!

前置詞 + el queは、先行詞に対応して、
el que / la que / los que / las queの
いずれかに変化する。

また、《前置詞+ el que》の先行詞が、人である場合には、el queの代わりに、quienを使うこともできます。
左下の例をquienを使った文にしてみましょう。

※この《quien》も《el que》と同様に先行詞に対応して変化するので注意。

Masao con quien trabaja Mari vive al lado de Miki.

しかし、次の文章のように先行詞が人を表さない場合には、quienを使うことができません。

Voy a ver la película "Frozen" de la que todo el mundo habla bien. 皆が良いと言う映画、「アナと雪の女王」を見に行きます。

※先行詞《la película》が女性名詞・単数のため、関係詞は《la que》と変化する。

ちょっと長い文章になっているので、関係性がわかりにくいかもしれませんね。分解すると以下のようになります。

情報その1 Voy a ver la película "Frozen".

私は映画「アナと雪の女王」を見に行きます。

情報その2 Todo el mundo habla bien de la película.

皆がその映画のことを良いと言っています。

✦ Hablar bien de Alは、「Aのことを良く言う」。

前置詞 + quienは、先行詞の数にのみ対応して、quien / quienesと変化する。



Los chicos con quienes está hablando Mari son sus hermanos.

マリさんと話している男の子達は、彼女の兄弟です。

*余談ですが、「アナと雪の女王」のスペイン語タイトルは「Frozen: El reino del hielo」です。



③ 関係詞《DONDE》の用法

今日のレッスンで最後に勉強するのは、先行詞が場所の場合に使われる関係詞dondeです。

基本的な使い方は、①と②で見てきた関係詞と変わりませんが、②とは違って、dondeは先行詞の性・数に対応して変化することはありません。

それではまず例を挙げて説明していきましょう。

右下の絵を見てみると、黄色い建物が見えますね。これはミキちゃんが毎日勉強している学校です。この情報を使って以下のような二つの文章ができます。

情報その1 Este edificio amarillo es una escuela.

この黄色い建物は学校です。

情報その2 Miki estudia en la escuela todos los días.

ミキちゃんはその学校で毎日勉強します。

これらの文章のうち、情報その1を主節として文章を一つにまとめると、次のようになります。

※関係詞《donde》でつなぐことにより、上の文章の《en》が消えています。

Este edificio amarillo es la escuela donde estudia Miki todos los días.

この黄色い建物は、ミキちゃんが毎日勉強している学校です。

ここで、注目してほしいのは、情報その2の文中にある、en la escuelaのenが消えてしまったことです。通常、関係詞dondeが使われる場合には、従属節となるもとの文章の中にen + 場所が出てきますが、dondeでつなぐことにより、enは消えてしまいます。

※《en》は必ず取ること!!

✗ Este edificio amarillo es la escuela en donde estudia Miki todos los días.

ただし、②で出てきた《前置詞 + el que》を使えば、enを残すことができますので、覚えておきましょう。

Este edificio amarillo es la escuela en la que estudia Miki todos los días.

形は変わりますが、dondeを使っても、en la queを使っても、ほとんどの場合、文章の意味に変化はありませんので、言いやすい方を使ってください。

今回は、いろいろな関係詞が出てきましたね。難しいですが、覚えるためには実際に文章の中で使ってみることが大切です。頑張ってください!



Este edificio amarillo es la escuela donde estudia Miki todos los días.

この黄色い建物は、ミキちゃんが毎日勉強している学校です。



《場所を表す先行詞 + donde》

③では、先行詞が場所を表す語の場合、次の例のようにdondeを使うことを勉強しました。

- Voy a cenar en el restaurante donde trabaja mi amigo.

(私は、友達働いているレストランで夕食をとるつもりです。)

上の文章のもとになった二つの情報は以下の通りです。

1. Voy a cenar en un restaurante. (私はレストランで夕食をとるつもりです。)

2. Mi amigo trabaja en el restaurante. (そのレストランで、友達働いています。)

ここ2の従属節となる文章に注目すると、先行詞となる語 el restauranteの前には enがあります。関係詞 dondeが使われるのは、原則としてこの enが存在する場合のみと覚えてください。

次のように、2の文章に enが無い場合、つまり、場所を表す語が従属節となる文章の主語または目的語となる場合には、関係詞 queを使わなければならないというルールがあります。

1. Voy a cenar en un restaurante. (私はレストランで夕食をとるつもりです。)

2. El restaurante es muy caro.

※この場合 el restauranteが主語となる。

これらを一文で表す場合は、以下の文章の関係詞 queを使わなければならないので、どちらの関係詞を使うべきかしっかり見極められるようになりますように!

- Voy a cenar en el restaurante que es muy caro.

(私は、そのとても高いレストランで夕食をとるつもりです。)



スペイン語

ADELANTE

www.adelante.jp

- ・一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分
- ・自然なスペイン語がマスターできる!
- ・振替ができるので忙しくても安心!
- ・月謝払いOK!
- ・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

TEL: 06-6346-5554 ・ FAX: 06-6110-5122

E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

イラスト：田中文字子

VEN AL COLEGIO DELIBES... ¡ SALAMANCA TE ESTÁ ESPERANDO !

コレヒオ デリベスにお越しください。 サラマンカがあなたを待っています！

歴史、芸術、学生の街として有名なサラマンカ。
この街では、訛りのないスペイン語が話されているため、
スペイン語を学ぶのにぴったりの環境です。

コレヒオ デリベスの教室で学ぶスペイン語は、サラマンカの通りで耳にするスペイン語とまったく同じです。ここでは訛りのない美しいスペイン語を学ぶことができます！

また、サラマンカは大都市の利便性と、小さな街の治安の良さや親しみやすい雰囲気の両方を兼ね備えています。

是非、サラマンカへお越しください！

きっとご自分の家にいるような心地よさを感じていただけると思います。



コレヒオ デリベスでは・・・

- 個人カウンセリングや希望に応じた柔軟な対応
- 14種類にも及ぶインテンシブコース(1日4～6レッスン)
- レベルは全14レベル
- 学生は若者からシニア層まで40カ国の国々から
- クラスの人数は最大10名
- 学校が厳選した滞在先(ホームステイ・学生寮・シェアアパート・個人用アパート・ホテル)
- スペイン文化やスポーツなど様々なアクティビティを提供
- エアコン完備の26教室と図書室
- スペイン料理教室

colegiodelibes

Y TÚ... HABLAS ESPAÑOL?

Colegio Delibes
Avda. Italia, 21
37007 Salamanca. España

Tfno: +34 923 120 460
Fax: +34 923 120 489
www.colegiodelibes.com
delibes@colegiodelibes.com

様態を表す副詞の用法について

ここ最近の2号では副詞を扱ってきましたが(16号「場所の副詞」、17号「時の副詞」)、そもそもスペイン語の副詞とは何でしょうか。副詞は「adverbio」と言いますが、ラテン語 ad-verbum、つまり「動詞にくっつけて」という意味に由来する文法用語です。この名の通り、副詞は動詞を修飾することが多いのは確かです(hablar **bien**)。しかし、形容詞、他の副詞に係ることもごく普通です(**bastante** salado, **demasiado** temprano)。また、実際にはもっと用法は多様で、名詞や文全体を修飾することもできます(el **entonces** presidente norteamericano Clinton 当時のアメリカ大統領クリントン)。ラテン語 verbum は「言葉」という意味でもあったので、結局はいろんな「言葉にくっつく語」ということですね(ほとんど説明になっていませんが)。

前置きが長くなりましたが、そろそろ本号のテーマである様態の副詞に入りましょう。基本的な様態の副詞は、bien, mal, regular, mejor, peor などです。「そのように」を意味する así, tal もそうです。前号でも触れた despacio, deprisa ももちろん様態の副詞です。

-mente の語尾を持つ語も様態の副詞です。言うまでもないでしょうが、形容詞に -mente を付加して副詞化するものです。-o で終わる場合は前もって -a と女性形にします。それではなぜ女性形にするのでしょうか、それは -mente が元々女性名詞だからです。mente は「心、精神」を意味します(派生語 mentalidad, mentir, etc.)。つまり、例えば amablemente なら「親切な心をもって」→「親切に」と副詞を作る語尾化したというわけです。しかし実は現代のスペイン語でも完全に一語になっているとは言えないフシがあります。それは、スペイン語で唯一 -mente の副詞が二箇所の強勢を維持していることです。amáblemente のつもりで二箇所を強く発音するようにしましょう。

-mente を形容詞に付加する以外にも様態の副詞の作り方があります。例えば、「con + 名詞」や「de modo + 形容詞」などです。

例 alegremente = con alegría = de un modo alegre 楽しそうに

一部の形容詞はそのままで副詞として使うことができます。形容詞の副詞用法と呼んでおきましょう。

Todos los días me hacían **trabajar duro** de 7:00 a 11:00. Era una llamada “compañía negra”. 毎日僕は7時から11時までハードに働かされた。いわゆるブラック企業だった。

Los jugadores de ese equipo **jugaron sucio**, así que incluso sus hinchas les pitaron. そのチームの選手たちは汚いプレーをした。だから、そのファンたちさえも野次を浴びせた。

trabajar duro, jugar limpio (sucio), etc. は「動詞 + 副詞」の慣用句的に使われることが多いです。他に有用な表現が多いのでぜひ覚えておきましょう。

respirar hondo 深く息をする agradecer infinito 限りなく感謝する etc

場合によっては形容詞そのままの形と -mente を付加して副詞化した形の両方が使用できることがあります。

Ella no habla muy **claro** y parece que esconde algún secreto. 彼女はあまりはっきり話さない。何か秘密を隠しているようだ。

claro の代わりに claramente を使っても意味は同じです。

形容詞が副詞として使われている場合、この形容詞が主語に性数一致しているケースがあります。以下の2例を比べてください。

Anoche Luisa **llegó** a casa muy **pronto**.

昨夜ルイサはとても早く帰宅した。

Anoche Luisa **llegó** a casa muy **cansada**.

昨夜ルイサはとても疲れて帰宅した。

前の例では pronto は「早く」という様態を表す副詞で動詞に係っています(pronto は男性単数)。一方、後の例では、cansado という形容詞は副詞として働いていますが、同時に主語にも深く関係しています(主語に一致して cansada と女性形)。これは「叙述補語」(complemento predicativo)と呼ばれるものの一種です。つまり、前者は Luisa ≠ pronto、後者は Luisa = cansada と考えることができます。別の言い方をすれば、Anoche Luisa llegó a casa と Luisa estaba muy cansada を1つの文で言い表したものと考えてもいいでしょう。

ところで solo は使い方によっては以下のような曖昧さが生じることがあります。

Javier trabaja **solo** los sábados.

ハビエルは土曜日**独り**で働く。

Javier trabaja **solo** los sábados.

ハビエルは土曜日**だけ**働く。

前の例では solo は動詞 trabaja と主語 Javier に係る叙述補語です。一方、後の例では solo は los sábados に係る限定の副詞です。この場合 solo の代わりに solamente を使うと誤解の可能性はなくなります。または、sólo とアクセントを付けます(ただし、2010年のアクセント規則の改定で現在では付けなくてよくなりました)。もちろん主語が女性ならば曖昧さはありません。

María trabaja **sola** los sábados.

マリアは土曜日**独り**で働く。

María trabaja **solo** los sábados.

マリアは土曜日**だけ**働く。

最後に様態の副詞句を見てみましょう。多くは「前置詞 + 名詞」です。いくつか例を挙げてみます。

Perdona! Te he pisado el pie **sin querer**.

コメン! 気付かないで足踏んじっちゃった。

Dada la difícil situación en el mercado laboral acepté esa oferta de trabajo **de buena gana**. 労働市場は困難な状況なので私はその仕事のオファーを喜んで受け入れた。

No sé cuándo se marchó Andrés de la fiesta de anoche, pues se despidió **a la francesa**. 昨夜のパーティーでアンドレスがいつ帰ったか知らない。フランス式に抜け出したので。

挨拶せずに別れることをスペイン語では「フランス式」と言います。もちろんフランス人がみんなそうするとは限りません。あくまで言葉の上でのことなので(フランス語では「イギリス式に」と言うそうです)。それにしてもスペイン語って文法は奥深く、表現は豊かですね。 ¡Hasta la vista!



仲井邦佳 なかいくによし Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学社)などがある



10
年目の

スペイン料理フォーラム

— 食文化を語る街、函館から —

函館で、「スペイン料理フォーラム」という催しが初めて開かれたのが 10 年前。そして今年 4 月、その第 2 回が開かれた。

函館を、料理人と食を愛する人々の集う町にしたいという一人の料理人の熱い思いは、この 10 年間で見事に結実してきた。そのひとつの区切りともいうべき今回のフォーラムに参加できたことに感謝しつつ、その成果を振り返ってみたい。

函館で、スペイン・バスク地方サン・セバスチャンのように料理学会を開くという地元のシェフ深谷氏の試みは、10 年前に始まったあと大きな展開をみせ、ここ数年は「世界料理学会」という形で定着してきた。もはやスペイン料理だけではなく、和洋中さまざまなジャンルの料理人が集まり、海外からも複数のゲストが来る。より大規模な学会へと発展してきたことは大いに嬉しく思っていたが、そもそものスタートがスペイン料理であったことを、深谷氏は忘れていなかった。

そして 10 年目の今年、「日本のスペイン料理がどう変わったか。料理人たちは今、何を考えているのか。10 年目の検証をしたい」という深谷氏からの趣意書が届き、かつて第 1 回のお手伝いをした面々が、ふたたび函館に集うことになった。

確かに、日本でのスペイン料理の知名度は上がった。スペインバルと称する店も増えた。しかし実際に現場にいる料理人たちは、現状をどう捉え、どう考え、何を目標しているのか・・・？

10 年間の変化を浮き彫りにするために、深谷氏は「第 1 回フォーラムの形をできる限り再現する」というスタンスをとり、フォーラムは 3 つの座談会とひとつの特別講演という形で行われた。そしてこの目論見は、正直なところ私の予想をはるかに上回って成功し、実に興味深い内容のぎっしりと詰まったフォーラムが実現したのだった。

外部から見たスペイン料理

フォーラムの幕開けは、「スペインから始まった現代料理の潮流の日本への影響」というタイトルで、さまざまなジャンルの料理人たちが語り合うという座談会から始まった。第1回のときは岸朝子氏が司会をされたこの座談会を、今回はバトンタッチされた形で私が司会させていただいた。

10年前のこの座談会にも著名なフレンチのシェフ、中国料理のシェフなどが出席されていたものの、その方たちのスペイン料理への認識のレベルもまだ低く、一般論に終わった感があった。しかし今回はまるで様子が違った。司会の私が後方に残されていくかと思うほど、スペイン料理界に対する的確な意見が続出し活発な議論が展開されたのだ。

なかでも論点となったのは、「エル・ブジとは何だったのか？」という深いテーマだ。言うまでもなく「エル・ブジ」とは、20世紀の終わりから21世紀にかけて世界中の注目を浴びてきたスーパーシェフ、フェラン・アドリアの料理を意味する。10年前には日本の料理人たちにとってまだ漠然とした遠い存在だったフェランの料理について、賛否を問う議論ができる時代になったことに、私は驚き感動した。フランス料理の鎌田シェフからの発言は、そんな認識の深さを象徴していると思う。

「エル・ブジで実際に食べて、おいしいと感動する料理は少ないかもしれない。しかし、それでもいいのだ。フェランがしてきたのは、常に新しい発想、新しい可能性、新しい技術を提案すること。その提案を受けて、本当においしい料理に展開していく料理人たちが育っていく。だからこそ、フェランの業績は大きい。」

スペイン料理に直接携わるわけではない、いわば外野の方たちから、ここま

で鋭く的確な意見が出てきたのは嬉しい驚きだった。否むしろ、外側から見ているからこそ意見なのかもしれない。

世界ランキングが高いからといって、レストランやシェフを盲目的に崇める時代は終わった。だからこそ、優れたシェフと彼の業績を、きちんと正しく評価すべき時が来ている。

今、フェラン・アドリアの『提案』を受け継ぎ展開させている料理人たちが、日本にも数多く存在する。座談会に出席した日本料理の秋山シェフは、エル・ブジから始まる新しい流れが自分たちにどんな影響を与えているかを語ってくれたし、スペインでの料理学会に参加してきたイタリア料理の奥田シェフも、スペインから発信された知恵がごく普遍的な知識として日本でも定着しつつあることを裏付けてくれた。そして在日スペイン人シェフ、ジョセップは、エル・ブジが与えてくれた知識は世界中でもはや常識として受け入れられていること、そのうえでスペイン料理の多様性と魅力が改めて注目されていることを認識してほしいと語った。

レストランとしてのエル・ブジが閉店した今、これからのフェランの活動にも世界の目が向けられている。一度頂点に上り詰めたスペイン料理界が、これからどういう方向へ向かっていくのか？ この疑問に、他の分野の料理人たちも十分に関心を持っていることを再認識させてくれる、スタートにふさわしい討論だった。

それでは、今現実に日本でスペイン料理を仕事としている料理人たちはどう考えているのか？ どんな方向へ向かっているのか？ その問いかけにそのまま答えるようなかたちで、舞台は第2部の座談会へと進行していった。



1. 実行委員会代表の深谷宏治氏のスピーチ。会場は多くの聴講者で埋まり大盛況。
2. スペインからのゲスト、「ルイス・イリサル料理学校」の講師、ホセチョ・リサレタ氏の講義。
3. ホセチョ・リサレタ氏の非常にわかりやすく懇切丁寧なプレゼンテーション。



1. 第1回のフォーラムで司会をされた岸朝子氏の開会挨拶。

2. 筆者の講演風景。

3. スペインから来日の料理指導者をはじめ、様々なジャンルのシェフ、料理ジャーナリスト、そして第一線のスペイン料理のシェフたち。世界と日本のスペイン料理の変化や発展、またこれからのガストロノミーの可能性をさぐる画期的なフォーラムとなった。

現代スペインに学んだ若者たち

若者というよりは、そろそろ円熟の世代に近づきつつある4人のシェフとベテラン料理雑誌編集者による第2の座談会は、今回のフォーラムで一番、「今」を感じさせる内容になった。

この4人は、奇しくもスペイン料理界のもっとも華やかな時代に、前後して修業のためにスペインに滞在した。しかも、最初からスペイン料理を学ぼうとしていた訳ではない。むしろ、イタリアやフランスが目標だったのに、偶然のいきさつからスペインへ流れ着いたというケースが多い。

そして彼らがスペインで目にしたのは、グルメ先進国のはずのイタリアやフランスを凌駕するような新しい料理の世界だった。フェラン・アドリアその人のもとで働く機会を得た山田氏をはじめ、それぞれが優れた料理人のもとで修業するチャンスを得たあと、日本に帰った彼らはそれからは異なる道を歩み、その料理は高い評価を得て来た。

そして今。司会者の「今のあなたの料理を、どう位置づけしますか?」という質問に、彼ら4人は異口同音に答えた。「今、自分が出している料理は、スペイン料理ではない。スペインで学んだことや技術は使っていても、これは自分の料理だ。」

フォーラムに参加していた多くの人たちにとって、その答えは意外なものに感じられたと思う。しかしよく考えてみれば、「現在のスペインで学んだからこそ、こういうスタンスが生まれた」ということがわかるはずだ。

彼らは、スペイン料理界がかつてないほどの活気にあふれている時に、フェランが先頭に立って推進した自由な雰囲気や謳歌してきた。彼らが師事したり食べに行ったりして目にするスペインのシェフたちは、「スペイン料理」ではなく「自分の創作料理」を模索し、それに成功した人たちだった。だからこそ彼らは、「自分の料理というものを見つけなければいけない」という確信をもって帰国したのである。

スペイン料理のテクニックを華やかに駆使しながらも、地元の食材にこだわりの自由な発想でメニューを構築する福本氏。「お客が望む料理、喜んでもらう料理を作りたいから、ジャンルにはこだわらない」と語る山田氏など、彼ら4人は、自分の求めるもの、向かっている方向を明確に知っている幸運な料理人たちだといえるだろう。

それと同時に、そういう自分の立ち位置を、少し離れた視点からクールに眺めることができるという点でも、彼らは「新しい世代の料理人」であることを実感させてくれた。そのクールさもまた、現代スペインの優れた料理人たちが彼らに残してくれた影響のひとつではないかと思う。

礎を築いてきたシェフたちは今

主催者の深谷氏を司会者とする3番目の座談会は、日本でのスペイン料理の草分けの時代に関わって来たシェフたちによって展開された。

深谷氏を始め今もスペイン料理の世界で活躍し、現場でその変遷を肌で感じているシェフも、スペイン料理から一歩はなれたところで自分の世界を築いているシェフも、この10年間の大きな変化を認めると同時に、自分たちが紹介してきた伝統的なスペイン料理に対する確信を表明してくれた気がする。

昨年、同じ函館で開かれた「世界料理学会」での小西シェフの発言どおり、「流行が変わるということは、スペイン料理が変わってしまうという意味ではない、スペイン料理界や料理店のメニューが変わるだけ」というスタンスを守りながら、より裾広がりになってきた日本のスペイン料理界を見守るベテランたちの発言には、10年だけではなく、もっと長い年月の重みを感じられた。

異文化を紹介することの重責。そこから生まれる数々のジレンマ。それらの課題への模索は、世代と時代を超えて、日本でスペイン料理にかかわる料理人たちが共通の課題として受け継がれていることを実感させてくれる座談会だった。

本場バスクからのメッセージ

今回スペインからのゲストとして函館を訪れてくれたのは、日本の多くの料理人たちにとっても師であるサン・セバスチャンのイリサル調理学校の教授、ホセチョ・リサレタ氏だ。

彼は特別講演のなかで、バスク料理の伝統と歴史を語り、「新バスク料理」の成り立ちについても詳しく語ってくれた。

今どんなにエル・ブジ中心の時代の波があるとしても、スペイン料理のルーツはバスクにある。新バスク料理に始まるバスクの料理人たちの努力があったからこそ、その上にフェランが彼の王国を築くことができたのだということを、日本の人々にも知ってほしいという切々たる彼の思いが、言葉の隅々から感じられる講演だった。

極端な前衛までいったん行き着いたスペイン料理界は今、深刻な経済危機のなかで複雑に揺れ動いている。しかし、そもそもヨーロッパのなかで立ち遅れていたスペイン料理界をフランスと肩を並べるところまで進化させたバ

スクのシェフたちの勤勉さと努力、そしてフランスをも飛び越えてスターダムにのし上がったフェランを代表とする、地中海スペインの独自性と強烈な個性を武器として、スペイン料理界はしぶとくヨーロッパ・ガストロノミーにおけるスターの座を守っていくだろう。

そして日本でも、すでに市民権を獲得しつつあるスペインの食文化は、さまざまな形で一層浸透し、より多くの優れた料理人が誕生していくに違いない。

スペイン料理界の 10 年。日本のレストラン界の 10 年。それぞれの料理人にとっての 10 年を、今回のフォーラムは見事に凝縮して見せてくれた。10 年後、いや 5 年後にでも、ふたたび函館で集結してスペイン料理について語ろう……。そんな約束が会場のあちこちで交わされる懇親会で、フォーラムは幕を閉じた。

この快挙を成し遂げてくれた深谷氏とそのチームの皆さんの絶大な努力に拍手を送るとともに、日本、スペインともに食について語り合える平和な時代が続くことを、そして真の豊かさを追求できる未来が訪れることを、心から祈りたい。

文・写真 渡辺万里

＜フォーラムと同時開催されたバル街とスペイン食材見本市の様子＞



1. バル街では恒例の生ハム、ワインを振る舞うサービスが。今回はスペインからのゲスト、ホセチョさんと帯同のイニャキさん、そして小西由企夫シェフらにもお手伝いいただいた。
- 2-4. 食材見本市。スペイン食材にくわえ、道南・青森地域の自慢の食材が勢揃い。会場にはたくさんのワインやスペインのビールも。試飲を重ねてほろ酔い気分。



渡辺万里 わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。1975 年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。1989 年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開設。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。早稲田大学文化構想学部非常勤講師。著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」（日本文芸社）、「修道院のうずら料理」（現代書館）、「スペインの籠から」（現代書館）など。

＜スペイン料理文化アカデミー＞

<http://academia-spain.com>
 〒171-0031 東京都豊島区目白 4-23-2
 TEL: 03-3953-8414
 ・スペイン料理クラス
 ・スペインワインを楽しむ会
 ・フラメンコ・ギタークラスなど開催

りんごの爽やか スパークリングワイン



シードラとは、りんごをつぶし、果汁を発酵させて作る微発泡の酒です。
フランス産は『シードル』、スペイン産は『シードラ』と呼ばれます。
カンタブリア海沿岸で多く造られ、特にアストリアス産とバスク産が有名です。
発酵させたりんご果汁に炭酸ガスを注入し、
糖を加えて状態を安定させてステンレスタンクで保存されます。
元々のアルコール度数の低さに、
炭酸ガスの爽やかな飲み口と甘みが加わって飲みやすく、
女性や若者に人気です。



マヤドール・ シードラ

<スパークリングワイン／やや甘口>

入念に選別されたりんごの実を使用した
さわやかでフルーティーな
やや甘口のシードラ。



250ml Alc.4.1%



酒類総合商社

株式会社 **キムラ**

広島県広島市中区羽衣町13-12 TEL.082-241-6703

<http://www.liquorlandjp.com>

キムラ 酒

検索

世界からキムラへ。
キムラからあなたへ。



世界各国のまだ見ぬ酒・食材を求めて。



酒類総合商社
株式会社 **キムラ**

広島県広島市中区羽衣町13-12 TEL.082-241-6703



<http://www.liquorlandjp.com>

キムラ 酒

検索

●お酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与える恐れがあります。お酒は楽しく、ほどほどに。のんだあとはリサイクル。

— 日本スペイン友好 400 周年 —
日本とスペインをつなぐフラメンコの情熱

Flamenco en Japón

文・Antonio Gil de Carrasco
アントニオ・ヒル・デ・カラスコ

Estamos en plena celebración del Año Dual España Japón que comenzó en octubre del pasado año y que concluirá el próximo mes de septiembre y que conmemora los 400 años del inicio de las relaciones diplomáticas entre España y Japón, a raíz del envío de la embajada Keicho del Samurai Hasekura Tsunenaga por el Señor de Sendai, Masamune Date.

Si analizamos, a lo largo de todos estos años, cuál ha sido el vínculo más enraizado entre nuestros dos países, me atrevería a decir que ha sido el Flamenco, hasta el punto de que hoy en día el volumen económico que mueve el Flamenco en Japón, es superior al que se mueve en Andalucía, cuna de este arte centenario. Me resulta admirable el hecho de que los artistas japoneses hayan sido capaces de asimilar la cultura flamenca y de imbuirse de una personalidad propia tan impresionante, que les ha llevado a convertirse en los únicos extranjeros capaces de producir en sus actuaciones lo más difícil, lo que los flamencos llaman el duende, tanto en el baile como en el cante.

La expresión “tener duende” se hizo muy popular gracias a Federico García Lorca, que la utilizó en su famoso discurso “El duende en el arte flamenco” en el que alababa las virtudes artísticas y casi mágicas de la famosa cantaora la Niña de los Peines. Ese algo especial que convierte al momento artístico en un momento mágico. Goethe también intentó definir “el duende” como “un poder misterioso que todos sienten y que ningún filósofo explica. Es un poder y no un hacer, no implica pensar, simplemente estalla y fluye”. Y eso es exactamente lo que ha ocurrido con los bailaores, cantaores, guitarristas y percusionistas japoneses, que el duende les ha estallado en sus venas y ha fluido con una fuerza impresionante.

Pero es que a Japón vienen todos los años los más grandes del flamenco español y en mi caso puedo decir que nunca he visto tanto flamenco y de tan buena calidad como el que estoy viendo en Tokio: Eva Yerbabuena, Antonio Canales, María Pagés, Antonio El Pipa o el Ballet Nacional de España bajo la dirección de Antonio Najarro, además de bailaores y músicos japoneses de primerísima categoría, donde, al igual que está ocurriendo en España, junto a espectáculos de flamenco tradicional con grandes artistas españoles acompañados a veces por cantaores, guitarristas y bailaores japoneses, también he podido ver espectáculos íntegramente llevados a cabo por artistas japoneses, algunos de los cuales no desmerecerían en los mejores tablaos de Andalucía, Madrid o Cataluña.

Sin embargo mi admiración ha llegado al máximo en el espectáculo que vi el pasado 5 de abril denominado Sonezaki en el Teatro Nacional de Tokio, que con bailaores y músicos japoneses, ataviados con kimonos, mezcló música tradicional japonesa con flamenco logrando una simbiosis casi perfecta. Fue espectacular ver a la bailaora Mayumi Kagita bailar con un colorido kimono emulando los movimientos de la bata de cola, o al bailar Hiroki Sato bailar flamenco con ropa y música japonesa. Un auténtico dialogo musical con motivo del Año Dual España-Japón auspiciado por el Instituto Cervantes de

昨年 10 月から始まった日本スペイン友好 400 周年は本年 9 月の終了を予定しており現在はその記念イヤーの最中におります。この交流年は 400 年前、仙台藩主伊達政宗が支倉常長を大使として慶長使節団を送ったことを記念するものです。

近年、両国の交流で最も大きな結びつきがあったのは何かと鑑みるに、それはフラメンコではなかろうかと思うのです。日本におけるフラメンコを取り巻く動きは経済的側面からも、フラメンコの発祥の地アンダルシアをしのぐものです。日本のアーティストがフラメンコを吸収し、すばらしくその独自の特性に浸り、それを体現する能力に私は感銘を受けました。バイレしかりカンテしかり、フラメンコで呼ぶところの「ドウエンデ」これを得ることは本当に難しいことですが、日本人はそれを体現しうる数少ない人々です。

「ドウエンデ」という表現はフェデリコ・ガルシア・ロルカの有名な講演「フラメンコ芸術のなかのドウエンデ」で知られるようになりました。そこで芸術的な美点と、有名なカンタオールのラ・ニーニャ・デ・ロス・ペイネスの魔力を賛辞したのでした。この何か特別なものは芸術的瞬間が魔術的瞬間へと変貌するのです。ゲーテはまた「全ての人が感じることができ、どんな哲学者も説明し得ない謎に満ちた力である。行うものでなく、考えるのではなく、ただ、炸裂し、湧き出るものだ」と定義づけようとした。まさにそれが日本のバイラオール、カンタオール、ギタリスト、パーカッショニストに起こったのです。ドウエンデが彼らの脈のなかで炸裂し、驚くべき力で湧き出てきたのです。

日本へはスペインのフラメンコの巨匠たちが毎年のようにやってきます。私はこれまで他の国ではこれほどまで沢山の高レベルのフラメンコ公演を見たことがありません。東京では、エヴァ・ジェルバブエナ、アントニオ・カナレス、マリア・パヘス、アントニオ・エル・ピパ、アントニオ・ナハロー率いるスペイン国立バレエ団の公演を拝見しました。さらには、スペインでもよくあることですが、スペインのアーティストに日本の第一級のアーティストたちが参加している公演、また日本のアーティストたちのみで競演している公演も拝見しましたが、アンダルシアやマドリッド、カタリニアのすばらしいタブラオに肩を並べるものでありました。

私の日本のフラメンコアーティストたちへの賞賛は去る 4 月 5 日の国立劇場での公演『曾根崎心中』で最高潮に達しました。本作は日本のバイラオールとミュージシャンらが着物をまとい、日本の伝統音楽とフラメンコをミックスしほぼ完璧なる共生の高みに達していました。着物をフラメンコのドレスのように巧みに操る鍵田真由美氏、また日本の着物と音楽に合わせて踊る佐藤浩希氏の公演はすばらしいものでした。私どもセルバンテス文化センターにおいても開催している日本スペイン交流年を祝うにあたり、本公演はまさに両国の対話となる公演でした。彼らの公演の



1. 日本のフラメンコバイラオール鍵田真由美氏、佐藤浩希氏の公演後、彼らと共に。アントニオ・ヒルと夫人
Los bailaores japoneses Mayumi Kagita y Hiroki Sato con Antonio Gil y su esposa tras el espectáculo



2. バイラオールのカルメン・レデスマと森田志保氏。アントニオ・ヒルと夫人「Plata y Oro」公演後
Las bailaoras Carmen Ledesma y Shiho Morita con Antonio Gil y su esposa tras el espectáculo "Plata y Oro"



3. アントニオ・カナレスとアントニオ・ヒル。「Plata y Oro」公演後
Antonio Canales y Antonio Gil tras el espectáculo "Plata y Oro"



Antonio Gil de Carrasco

Nació en Granada en 1954. Escritor y periodista.
Doctor en Letras, Licenciado en Filosofía y Letras,
Diplomado en Educación General Básica.
Actual Director del Instituto Cervantes de Tokio.

アントニオ・ヒル・デ・カラスコ

1954年グラナダ生まれ。作家、ジャーナリスト。
文学博士。哲文学部卒業。教職課程履修。
セルバンテス文化センター東京(日本)現館長。

Tokio. Justo un día después asistí en el Teatro Senju al espectáculo de Antonio Canales “Plata y Oro” en el que un genial Canales, acompañado por la bailaora española Carmen Ledesma y la bailaora japonesa Shiho Morita, demostraban lo que es bailar flamenco tradicional del bueno. Canales tras el espectáculo, me contó lo orgulloso que se sentía de ser de Granada, lo cual me llenó de alegría.

El Flamenco es una manifestación única y muy especial del arte y de la cultura de España. De hecho, es una forma de cultura en sí misma, con su propia filosofía y estilo de vida. En la Cultura Flamenca, la música constituye la mayor fuerza expresiva. Pero, ¿qué significa ser flamenco? Para mí ser flamenco significa sobre todo una filosofía de vida consistente en:

Vivir de una forma determinada, con alegría y plenitud de optimismo en el que la amistad ocupa un papel central, En el fondo, se trata de una mezcla de intensidad, melancolía, orgullo y alegría de vivir.

Y todas estas características las ha captado el bailar japonés que, perteneciendo a una cultura donde no se expresan las emociones, ni los sentimientos, estas han podido salir y desarrollarse a través del Flamenco de una forma exquisita.

El Año Dual ha tenido todo tipo de actividades económicas, científicas, musicales, de danza, literatura, teatro, etc ... , en las que el Instituto Cervantes de Tokio ha jugado un papel importante, y dentro de ellas y a tenor de este artículo, me gustaría destacar las I y II Cumbre Flamenca de Japón celebradas en el Instituto Cervantes de Tokio, en octubre de 2012 y diciembre de 2013 y que reunió a más de cuarenta artistas japoneses en cada una de ellas. Destacando en la I al bailar Shoji Kojima, que incluso llegó a ser uno de los primeros bailarines del Ballet Nacional de España y la bailaora Shiho Morita, que está profundizando cada vez más en el nuevo flamenco que preconizan Israel Galván o Andrés Marín. En la II destacaron la bailaora Yoko Komatsubara, la Faraona del Flamenco en Japón y a quien rendimos un homenaje, y la también bailaora Masami Okada, una gran bailaora del flamenco tradicional.

Con la Cumbre Flamenca de Japón el Instituto Cervantes de Tokio consiguió el objetivo de facilitar un lugar de encuentro con los grandes artistas japoneses que han destacado por su dedicación, pasión y originalidad en este arte y que han conseguido que el flamenco japonés haya ganado mercedemente un espacio muy relevante. Se trató también de rendir un pequeño homenaje a todos los artistas flamencos japoneses que vienen trabajando duro desde hace décadas para conseguir un alto nivel de excelencia en sus actuaciones y que se han convertido al propio tiempo, más que nadie, en los mejores embajadores de la cultura española en Japón.

Antonio Gil de Carrasco
Director del Instituto Cervantes de Tokio

翌日は千住の劇場での巨匠アントニオ・カナレス出演、カルメン・レデスマ、日本から森田志保が共演する『Plata y Oro』の公演で、伝統的フラメンコを堪能いたしました。公演後カナレス氏は、グラナダ出身であることを誇りに思うと私に話してくれ、私もそれを聞き大変嬉しく思いました。

フラメンコはスペイン文化、芸術の中でも特別で唯一のマニフェストです。それは独自の哲学、生き様を備えた芸術です。フラメンコの世界では音楽は表現力を最大限に発揮させるのです。ではフラメンコとはどんな意味を持つのでしょうか？私にとってフラメンコは特に次のような人生の哲学のなかにあると思うのです：

「意思を持って生きること」

「喜びをもって生きること、友情を人生の哲学とし、楽天的にあふれ生きること」

その奥底には人生の強さと憂い、そして誇りと喜びが混ざり合っている。このような特性を、感情や思いを表に出すことが少ない社会の中にいながら、日本のバイラオールたちは、フラメンコを通して、素晴らしい形で、それらを内から発し、発展させているのです。

日本スペイン交流年においては、経済、科学、音楽、ダンス、文学、舞台など多岐に渡るイベントを開催し、セルバンテス文化センターは大きな役割を果たしていると自負しております。その中でも特出すべきは、2012年10月と2013年12月開催の「クンブレ・フラメンコ」です。このイベントには毎年40名以上の日本のフラメンコ人たちが結集しました。第1回目で特出すべきは、スペイン国立バレエ団のトップダンサーにもなった小島章司氏。またイスラエル・ガルバン、アンドレス・マリンらにみられる新しいフラメンコを益々深めている森田志保氏。第2回目では、日本のフラメンコ界を牽引してきた小松原庸子氏、また伝統的フラメンコの素晴らしいバイラオーラの岡田昌己氏にオマージュを捧げました。

セルバンテス文化センター東京はクンブレ・フラメンコを通し、その献身、情熱、オリジナリティーに特出した日本の偉大なるアーティスト達に出会いの場を提供する目的を果たすことができました。また日本のフラメンコにとっても重要な場を得たといえるでしょう。最後にこの場をお借りして、全ての日本のフラメンコ人に敬意を表したいと思います。彼らは自身の芸術を卓越した高いレベルに持ってゆくため何十年も厳しい研鑽を積んでいます。そして他の誰よりも日本におけるスペイン文化のすばらしき大使となっているのです。



2012年10月と2013年12月に開催された「クンブレ・フラメンコ」1. 小島章司氏 2. 入交恒子氏 3. アントニオ・ヒルと小松原庸子氏
Las I y II Cumbre Flamenca de Japón 1. Shoji Kojima 2. Tsuneko Irimajiri 3. Antonio Gil y Yoko Komatsubara

スペイン内戦が生んだ「ロバート・キャパ」(4)

待ちに待った休暇。アンドレは、ゲルダと医学生ウィリー・シャルダック、それにもう一人レイモン・ゴランとともに、コートダジュール沖のサンド・マルグリッド島で過ごす。そのうちアンドレとゲルダは離れがたい間柄となり、パリに戻って、アンドレは彼女にライカの使い方を教え、彼女が初めて撮った写真の現像までしてやった。そして2人は、エッフェル塔近くの小さなアパートマンで一緒に生活するようになる。

いよいよ二人は生まれ変わる。当時のカメラマン仲間のジョン・ハーシーはアンドレがどのようにしてロバート・キャパに生まれ変わったかを解説している。(アレックス・カーショウ『血とシャンパン ロバート・キャパとその生涯と時代』野中邦子訳、角川書店、2004、p.40)

アンドレとゲルダは、三人で仕事をしていることにした。写真通信社で働いていたゲルダは秘書および販売担当。アンドレは暗室係。この二人はロバート・キャパという名前で有名で才能のある(ただし架空の)アメリカ人のカメラマンに雇われてフランスに来ているという設定であった。

事実、アンドレは、1947年のラジオ・インタビューでこの時の事情について、こう説明している。(同書、p.40)

それで、新しい名前をでっち上げた。……ロバートってのは、アメリカ人らしいじゃないか。いかにも、ありそうですね。キャパというのもアメリカ的だし、発音しやすい、ボブ・キャパならいい名前だと思った。アメリカの有名なカメラマンであるボブ・キャパはヨーロッパに來たが、高いギャラを払わないフランスのエディターにつき合う暇はないという筋書きを考えた……それから、ちっぽけなライカで撮った写真にボブ・キャパと署名を入れて、相場の2倍で売った。

1936年2月16日、スペインの総選挙で、右翼連合の国民戦線と左翼連合の人民戦線の激しい対決が投票箱の中で行われ、人民戦線が圧勝する。人民戦線の議席263、中間派の議席77、国民戦線133であったが、得票数からすれば、僅差の勝利であった。マニエル・アサーニャが首相に就任する。また、5月3日、フランスで総選挙が行われ、ここでも右翼戦線と左翼戦線が激突し、人民戦線が圧勝し、議席146人を確保した社会党の党首レオン・ブルムが首相に指名される。反ファシズムを標榜するスペインとフランスの人民戦線内閣の誕生は、いままでもナチスに弾圧されてきたキャパやタローのようなユダヤ人亡命者にとってまさに僥倖であった。

1936年6月30日、ジュネーヴで開かれる国際連盟の臨時総会で、エチオピア皇帝ハイレ・セラシエ1世がムッソリーニのファシズムを批判する演説を行うことになっていた。レオン・ブルム首相、イギリスのアンソニー・イーデン首相も総会場に來ていた。演説が始まった途端、ムッソリーニを支持するイタリアの記者団が立ち上がり、ハイレ・セラシエを侮辱し、エチオピアを罵倒する野次が続いた。結局、警官隊が導入され、こうした不規則発言をする記者団を会議場からつまみ出して路上に待機中の護送車に押し込んだ。ところが、イタリア人記者団の狼藉を大声で叱責するスペイン人記者を、警官隊がイタリア人記者団の一味と思って誤認逮捕してしまい、その行為に抗議したために彼に狼轡を食め、無理やり護送車に乗せ警察署に連行した。間もなく警察署で彼は事件関係者の一味ではないことが判明し釈放されたが、偶然にも会議場の外で待機していたキャパがこのゴタゴタに遭遇し、何枚かショットする。この「ロバート・キャパ」という署名付きの写真が『ヴェ』誌のリュシアン・ヴォジェルのデスクに届けられる。彼は直ちにアメリカの有名な写真家のエージェンツであるタローに電話をかけ、「キャパの話は

とても面白いが、薄汚れた皮のジャケットを着たフリードマンというおかしな青二才に、明日朝9時きっかりにうちの事務所に來るように伝えてくれ」と語った。おそらく会議場の外で、ヴォジェルがキャパの撮影現場を目撃していたのだろう。

このエピソードからしても、海千山千のジャーナリストたちを相手にしてきた編集長にはキャパとタローの即席の「新商売」はそうスムーズに通用しなかったようである。

この1週間後、キャパは、パリの北東130マイルにあるヴェルダンの儀式を取材する。第1次世界大戦(この時点では、まだこうした名称は存在しなかった。ただ「大戦争」と呼ばれていた)、干戈を交えたフランスとドイツがそれぞれ30万人以上の戦死者を出した壮絶な戦闘だった。この日、この戦闘で戦った約2万人の元兵士が14か国からやって来て、平和を誓う、平和のために闘うことを誓ったのだ。数百基もの灯籠で照らされた軍人共同墓地で、白い十字架の背後に立ち、足元の墓に白い花輪を手向けるのをカメラに収める。

その後の7月19日、パリの各新聞は、スペインの正規軍と右翼勢力が人民戦線政府に対して軍事叛乱を起こした、と大々的に報じていた。

この頃にはタローはカメラマンとしての腕も申し分なく、キャパのパートナーとして仕事ができるほどになっていた。二人は一緒にスペインの戦場に赴く手筈を整えようとした。つまり、二人の取材のために必要な取材費を提供してくれる雑誌社を探そうとしたのだ。

信じられないことであつたろうが、『ヴェ』誌の編集長リュシアン・ヴォジェルが飛行機をチャーターしてジャーナリストたちとともにバルセロナへ飛び、そこから彼らを『ヴェ』誌のスペイン特別号を制作するためにスペイン各地に取材してもらう企画を立て、キャパとタローにこれに加わらないかと誘ったのだ。渡りに船とはこのことである。二人にとっては千載一遇のチャンスであった。

しかし、その飛行機が途中で故障してしまい、バルセロナからかなり離れたところに緊急着陸する。この事故で、ヴォジェルともう一人の記者が負傷するが、二人は無事だった。飛行機自体の修理に時間がかかることが判明し、ヴォジェルはその飛行機をカタルーニャ自治政府に寄付してしまう。

8月5日、二人は列車で、「プロレタリア革命の首都」バルセロナに到着する。

彼らが到着する前のバルセロナの様子を紹介しておこう。

7月18日、バルセロナの駐屯の正規軍が武装蜂起するが、7月20日の夕方には、すべての軍事叛乱は鎮圧された。これ以降、バルセロナの政治の中心は、叛乱軍の前では全く無力だったカタルーニャ自治政府に変わって、叛乱軍に武力抵抗し、さらに鎮圧してしまったCNTの労働者や市井の市民たちの手中に移ってしまう。具体的には、彼らは、カタルーニャ自治政府に代わる「反ファシスト民兵員会」という名の、いわば行政担当の委員会を設置した。この「委員会」は、バルセロナの主要な反ファシスト系の政党、労働組合、各種団体などの代表者が平等の立場で構成された。カタルーニャ自治政府の実権はほとんどなくなり、有名無実の存在となった。このようにして、バルセロナは「労働者の都市」となったのである。(続く)

文 川成洋



川成洋 かわなりよう / Yo Kawanari

1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。社会学博士(一橋大学)。Ph.D.(ロンドン大学)。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家(合気道6段、杖道3段、居合道3段)。書評家。主要著書:『青春のスペイン戦争』(中公新書)、『スペイン戦争—ジャック白井と国際旅団』(朝日選書)、『スペイン—未完の現代史』(彩流社)、『スペイン—歴史の旅』(人間社)、『ジャック白井と国際旅団—スペイン内戦を戦った日本人』(中公文庫)ほか。

スペインとラテンアメリカにて 最先端を行くスペイン語学校

創立 1989年

Enforex



認定校:



12

スペインの
アカデミック
センター

10

スペイン、
メキシコ、
コスタリカでの
サマーキャンプ

20

ラテン
アメリカの
研修都市

32

スペインでの
大学、
ファウンデーション
プログラム

ヘッドオフィス

Alberto Aguilera, 26 | 28015 Madrid

Phone: +34 91 594 37 76

Fax: +34 91 594 51 59

E-mail: asia@enforex.es

ideal
education group

アリカンテ | バルセロナ | カディス | グラナダ | マドリッド | マラガ | マルベージャ | パンプローナ | サラマンカ | セビージャ | テネリフェ | バレンシア (スペイン)
アルゼンチン | ボリビア | コロンビア | コスタリカ | チリ | キューバ | ドミニカ共和国 | エクアドル | ガテマラ | メキシコ | ペルー (ラテンアメリカ)

スペインのお勧めバル／レストラン

第8回 LA HERMANDAD DE PESCADORES JATETXEA (エルマンダス・デ・ペスカドーレス・ハテチェア)

フランスとの国境にある町フエンテラビアー（バスク語オンダリビア）。この町は古くから漁師町として有名であり、爽やかな海風に誘われると、やはり新鮮な魚料理に舌鼓を打ちたくなる。平屋が印象的な LA HERMANDAD DE PESCADORES JATETXEA（エルマンダー・デ・ペスカドーレス・ハテチェア／レストラン漁師組合）は城壁外の建物では一番古いとされる 1361 年に建築され、当時漁師の網や道具が内部に納められていたそう。そんな歴史あるレストランのお勧めは MERLUZA（メルルーサ／タラの一種）料理であろう。特にバスク料理の KOKOTXAS（ココチャス／メルルーサの顎の下の部分）は人気がある。その他にも、カンタブリア海の BONITO（ボニート／ピン長マグロ）オリーブオイル漬け、手作り塩漬けアンチョビ、オリーブオイル漬けアンチョビ、TXANGURRO（蟹）やタコ、アサリ等、新鮮な海の幸を季節に応じてたっぷりと堪能できるが、絶対にはずせないのは SOPA DE PESCADO（ソパ・デ・ペスカード／魚のスープ）であろう。ソパ・デ・ペスカードはメルルーサの骨を煮込んだスープである。この魚のスープをメニューに持つレストランはスペインには多いが、ここのスープはそのまろやかさと繊細さが秀逸でそのテクチャーは止みつきになりそう。是非是非お試しを！



田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフオワード、米通信機会社勤務後、2001 年よりセビージャ在住。2006 年個人自営業ビザ獲得。2008 年アンダルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、オリーブオイルコース、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。
HP: www.creapasion.com / <http://spain.fc2web.com/>



写真上:見逃せない SOPA DE PESCADO (魚のスープ)。写真は 2 人前 (1 人前 8 ユーロ)。左下: CHIPIRON TROCEADO EN SU TINTA (チビロン・トロセアード・エンス・ティンタ／刻んだホタルイカの墨煮) 18 ユーロ。柔らかく煮込んであるイカが美味。右下: 不定期 PANTXINETA AL HORNO (パンチネタ・アル・オルノ／カスタードクリーム入りパイケーキ・アイス添え) 6 ユーロはバスク典型スイーツでラッキーな人のみが食せる。

LA HERMANDAD DE PESCADORES JATETXEA

(エルマンダス・デ・ペスカドーレス・ハテチェア)

住所: Zuloaga, 12, FUENTERRABIA/HONDARRIBIA

電話: +34 943 64 27 38

※上記情報は、2014 年 8 月時点のもので変更する可能性があります。

<お知らせ>

オリーブオイル生産量世界一のスペイン、ハエンにて行われる

“オリーブ学とテイスティングのスペシャリストコース”

日本語でのコース

開催日: 2014 年 11 月 17 日 (月) から 11 月 28 日 (金)

場所: スペイン国アンダルシア州ハエン県

【コースの目的と内容】

スペインは世界一位のオリーブオイル生産国で、スペイン産のエキストラ・バージン・オリーブオイル（以下 EV オリーブオイル）は世界的に顕著なコンクールの上位を独占し、2013-2014 年のワールド・ベスト・オリーブオイルのランキングでは上位 20 社のうち 17 社がスペイン産となっています。そのスペインにおいて、オリーブオイル界で世界的著名な教授陣からオリーブオイルの真髄を学ぶコースを開催します。オリーブオイルの歴史や文化、栽培、品種等オリーブオイルとテイスティングの基本的な知識から、植林形態や種類、そして栽培から製造までの工程とオイル品質、各成分と官能見地とその安定性、健康的見地の関連性等を深く追求していきます。上級モジュールではプロのテイスティングにフォーカスし、徹底的にその知識を学ぶことができます。基礎理論をしっかりと学び、それによって影響を受ける官能見地の様々なポイントが理解できるでしょう。最先端の現場にて行われている収穫と搾油技術の見学、そして有名な原産地呼称委員会の訪問。搾油されたばかりの様々な品種の最高級 EV オリーブオイルをテイスティングする絶好のチャンスで、日本では経験できない充実したものとなることは間違いありません。

コース詳細は、<http://www.creapasion.com/oliveoilcourse.html> をご覧いただくか、tomiko_tanaka@creapasion.com までご連絡をください。



主催:
CREAPASION (クレアパシオン www.creapasion.com)、
アヌンシアシオン・カルピオ (<http://anunciacarpio.blogspot.com.es/>)
協力:
*オレアルム協会 (オリーブオイルの文化と遺産) (<http://www.olearum.es/>)
*テイスターのアンダルシア協会 “ONFACIUM”
*オリーブ財団
*料理学校ーホセ・ルイス・ナバス

西宮市国際交流協会

スペイン語おしゃべりの会 活動報告



今年 2 回目の「西宮スペイン語おしゃべりの会」が 6 月 21 日に開催され、定員 30 名が満席となる賑わいでした。今回の会のテーマは、Palencia: la bella desconocida (Palencia—未知なる魅力の町) でした。今回の講師 Palencia 出身の Sandra Cuesta さんは、本誌 acueducto 第 16 号で「Flamenco con sabor japonés」という記事をご自身の顔写真入りで寄稿をされていますので、どこかで見たと思われた方もあったことでしょう。英語学および通訳翻訳学学士で、現在は京都外国語大学でスペイン語講師をされています。

はじめ Palencia なる町の名前を聞いた時、Valencia の聞き間違いかと思いましたが、調べてみると Castilla y León 州にあり、人口約 8 万人で、1208 年に創立された Palencia 大学や、由緒ある教会が佇む、長い歴史を持つ町であることが分かりました。

Sandra さん自身も Palencia は日本で一般にはあまり知られていないのではと、先ず 3 種類の地図のコピーを出席者に配布してくれました。

①スペイン全体の中での Palencia の位置 ②Palencia の市街地地図 ③Santiago 巡礼道での Palencia の位置—この 3 種類の地図は出席者にとって Palencia を頭の中で思い描くうえで、とても参考になる資料となりました。

私達に馴染みの薄い Palencia について多くを学ぶことができ、Sandra さんの気さくなおしゃべりと相まって打ち解けた雰囲気の中で参加者から多くの質問があり、今回も活発な会になりました。最後に、アラブ人がつくり始めたというアーモンド、砂糖、蜂蜜でできたスペインのポピュラーなお菓子「トゥロン」が、一口大のサイズにして Sandra さんからふるまわれ、参加者を一層笑顔にしてくれました。

さて、次回の「西宮スペイン語おしゃべりの会」は 10 月 5 日(日)です。講師はスペイン出身の Joan Pomata さんと、テーマは「Alicante, mediterráneamente(地中海そのものの町、アリカンテ)」の予定です。

今回同様定員一杯のご参加をお待ちしています。

文・写真提供 谷善三



<スペイン語おしゃべりの会 次回開催予定>

「Alicante, mediterráneamente
(地中海そのものの町、アリカンテ)」

日程：2014 年 10 月 5 日(日) 午後 2:00~3:30

場所：〒662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4 階

(公財) 西宮市国際交流協会 会議室

ゲスト：Joan Pomata さん

参加費：500 円

定員：30 名(先着順)

電話：(0798)32-8680 / FAX：(0798)32-8678

E-mail：nia930@sound.ocn.ne.jp

お申し込みは電話、FAX、E-mail にて



スペイン語
ADELANTE
Librería de español

スペイン語の本 & 雑貨

www.
adelante
shop.jp

Tel: 06-6346-5554

スペイン日本研究学会第2回国際会議 「ハポン」さんの故郷を訪ねて

文・写真 安田圭史



今年 3 月 26 日から 29 日にかけて、スペイン南部、アンダルシア州の州都にあるセビリア大学で行われたスペイン日本研究学会第 2 回国際会議 (II Congreso Internacional de la Asociación de Estudios Japoneses en España) に発表者のひとりとして参加した。昨年 2013 年は仙台藩の支倉常長に率いられた慶長遣欧使節がスペインを訪問してから 400 周年を迎え、『「日本と西洋」—文化遺産に見られる接点—』と題した今回の国際会議は今年 7 月まで日本、スペイン両国で実施されていた「日本スペイン交流 400 周年記念事業」の一環として開催された。スペインでは近年、「japonología」と呼ばれる日本研究が各大学で盛んに進められており、2011 年の第 1 回国際会議に続いて開かれた今回の会議では 4 日間で 80 を超える講演や研究発表が行われた。テーマも多岐に渡り、歴史や文学などの古典的なものから、映画やテレビゲームといったメディア系のものまで様々で、スペインにおける日本研究が進展し、急速に細分化していることを強く認識させられた。



会議 3 日目には、セビリア市から南に約 15 キロのところにある村、コリア・デル・リオに移動し、記念シンポジウム「慶長遣欧使節スペイン訪問 400 周年」に出席した。コリア・デル・リオは人口約 30,000 人の小さな村であるが、慶長遣欧使節の一員であった日本人人数がこの村に残り、その末裔とされる約 700 人はスペイン語で「日本」を意味する「Japón(ハポン)」の苗字を持つことで日本では広く知られている。ちなみにこのシンポジウムの司会者は、90 年代、スペインのプロサッカーの 1 部リーグ、リーガ・エスパニョーラで主審として活躍し、昨年駐セビリア日本名誉領事に任命されたホセ・ハポン・セビリア氏であった。また、講演者の中には、スペインで著名な地理学者として知られ、アンダルシア州議会議員やアンダルシア国際大学学長なども歴任したファン・マヌエル・スアレス・ハポン氏の姿もあった。二人ともルーツがこの村にあることは明らかである。



会議が開催された 4 日間のうち 3 日間は天候に恵まれたが、1 日は残念ながらかなり強い雨が降った。その悪天候の日がまさにコリア・デル・リオを訪ねた日であった。しかし、この村で目にしたグアダルキビル川とその船着き場の雄大な風景は、400 年前、慶長遣欧使節が苦難のちにここを訪れた、という思いと相まって、降りしきる雨を忘れるくらいに感慨深いものであった。船着き場の前に 1992 年から立つ支倉常長像は、400 年の間に培われた日西両国の揺るぎない友好関係を示しているように感じられた。今後もスペインでの日本研究、同時に日本におけるスペイン研究がさらに発展することを願いつつ、今回の国際会議も是非参加したいと思っている。



セビリア大学で行われたスペイン日本研究学会第2回国際会議の様子



グアダルキビル川の船着き場



船着き場前に立つ支倉常長像と筆者



安田圭史 やすだけいし / Keishi Yasuda

1977 年山口県生まれ。龍谷大学経済学部専任講師。専攻はスペイン現代史。著書に『インターネット対応学習プログラム付き スペイン語技能検定 5 級直前対策問題』(共著、英潮社フェニックス)、『スペイン文化事典』(共著、丸善)、*Japón y la Península Ibérica: cinco siglos de encuentros* (共著、Satori Ediciones)、『マドリッドとカスティージャを知るための 60 章』(共著、明石書店) など。



スペイン関連書籍

書評

『マドリードとカステリーヤを知るための60章』

明石書店の《スペイン5部作》がこれで、全部出そろったことになる。『スペインのガリシアを知るための50章』『アンダルシアを知るための53章』『現代スペインを知るための60章』『カタルーニャを知るための50章』そして、本書『マドリードとカステリーヤを知るための60章』である。

「起ったことが話題にならず、話題にならなかったことが起こる」といったのは、20世紀のスペイン哲学界の碩学、オルテガ・イ・ガゼットの高弟フリアン・マリャスである。スペインの全史を俯瞰した場合、一言で言えば、ダイナミックな「断絶の連続」となるであろう。

かつては「陽の沈むことなき」大帝国スペインを牽引してきたマドリード（1561年に遷都）、さらに、この首都を囲むように点在するカステリーヤの古都とは一体どのようなところなのだろうか。

スペイン社会の特徴の一つとして挙げられるのは、「おらが郷土意識」、別言すれば、頑迷固陋とも言うべき「地方主義」であろうか。しかも、スペインは、ヨーロッパではスイスの次ぐ山岳国であり、ちなみに、マドリードの標高は655メートル。その地形のために地域間の相互の交通・交流が困難であり、地域独自でまとまりがちであった。ついでに言えば、使用言語も、たとえば、ガリシア語（ゲール語系）、カタラン（カタルーニャ語）、バスク語、そしてカステリーヤ語（スペイン語）と言語学的には相互に関連性を全く持たない言語、そしてそれで書かれた文学作品が存在すること自体、強靱な「おらが郷土意識」を持続させてきた要因であろう。

ところで、人類の発祥をアフリカとするなら、いわゆるアフリカ大地溝帯を通じて南進、北進、東進していったはずで、スペインはヨーロッパで最も早い段階の人類がその足跡を残した地域だった。とりわけ有史以来、多種多様な民族や人種

『マドリードとカステリーヤを知るための60章』
川成洋・下山静香 編著
明石書店 2,000円（税抜）



がスペイン（イベリア半島）に到来し、独創的な文化を残し、あるいはレアケースであるが、既存の文化と混淆したりして、独自の地方文化を形成したのである。

本書は、マドリードよりはるか以前の西ゴート時代（579年）からスペインの首都であり、スペイン・カトリックの総本山であり、16世紀から歩みを止めたと言われるエル・グレゴが愛したトレド、ヨーロッパ4大学の一つであり、13世紀初頭創設の名門サラマンカ大学を擁するサラマンカ、11世紀の英雄エル・シドの誕生の町ブルゴス、紀元1世紀のローマ時代の造られたとされる水道橋、そしてディズニーの《白雪姫》《眠れる森の美女》《シンデレラ》のモデルとなったロマンティックなアルカサル（城）の町セコピア、誰もがどこかで聞いたことのあるホアキン・ロドリゴ作曲の《アランフェス協奏曲》の舞台となった王宮の町アランフェス、スペイン黄金の世紀を代表する文豪セルバンテスを生んだ大学の町アルカラ・デ・エナーレス、ヨーロッパ・カトリックの3大巡礼地の一つ、サンティアゴ巡礼の中継の町レオン、「アダム以来の宇宙の王」とか「南の悪魔」とも呼ばれていたフェリペ2世（在位1556～98）が建設した壮大なエル・エスコリアル修道院・王宮のある町エル・エスコリアル、そしていたることに現在なお屹立している、11～12世紀にロマネスク教会や修道院などを含め、スペイン中央部の百花繚乱の誇り高い歴史と文化を詳らかにしている。

評論家 阿久根利具

『伊達侍と世界をゆくー「慶長遣欧使節」とめぐる旅』

政宗の命を受けて、支倉常長が日本を発ってから400年を迎えた2013年6月から今年7月までが、「日本・スペイン交流400年」とされ、これまで数々の記念行事が両国で開催されてきた。

「交流400年」が間もなく幕を閉じようとする6月16日、一冊の本が上梓された。題して『伊達侍と世界をゆくー「慶長遣欧使節」とめぐる旅』。写真家とジャーナリストが400年前に旅した一行の足跡をたどり、彼らが異国の地で何を見て、何を思ったかを再考した本である。

南蛮時代にヨーロッパに旅した使節には天正遣欧使と慶長遣欧使節の2つの使節がある。前者はヨーロッパ各地で大歓迎を受けて帰国したが、後者は日本でキリシタンの弾圧が強まる中でヨーロッパキリスト教世界を訪れたが故に、悲劇の使節として帰国を余儀なくされた。

慶長遣欧使節は何故にこのような状況の中でキリスト教ヨーロッパ世界を訪問したのか、謎めいた部分が多く、それだけに謎の解明に挑んだ研究書も多く、諸説紛々としている。

そんな中で、本書では、政宗の送り出した使節の目的を、「貿易で国を富ませるだけでなく、天下取りの夢も入っていたかも知れない」、としている。

とはいえ、本書は慶長遣欧使節の研究書ではない。むしろ一行が訪れた各地を数多くの写真と名文でたどる入門書である。研究書では知れない各地の状況が明らかにされ、侍たちのとった言動が400年の時を超えて現在に浮かびあがってくるようである。

京都外国語大学教授 坂東省次



『伊達侍と世界をゆくー「慶長遣欧使節」とめぐる旅』
写真・篠田有史 文・工藤律子
河北新報出版センター 1,600円（税抜）

『ガリシア 心の歌』 カバニージャス文学記念功労賞受賞作品

この本のタイトルは『ガリシア 心の歌』、副題は「ラモン・カバニージャスを歌う」です。カバニージャスが発表したガリシア語の詩にスペインの作曲家が創り上げた曲をピアノ演奏西川理香、ソプラノ独唱芳賀美穂が歌いあげた8曲を収録して本書に収めたものです。カバニージャスに関する本は、日本でも初めてのものであり、さらにCDを付けた世界初の出版物です。

スペインのガリシア州カンパードス出身の詩人ラモン・カバニージャス（1876-1959）は、初期の作品に『故郷を離れて』、『海からの風』があり「憧憬の詩人」と呼ばれていましたが、『威圧された故郷』を発表するところから次第に「ガリシア民族の詩人」と崇められてようになりました。つまり、カバニージャスの詩はガリシアの民族の心を詠んだことから、民族の詩人と称されることになった訳です。

本書の構成は、第一章ラモン・カバニージャスの生涯と作品。生い立ち。キューバに移住。ガリシアに戻る。レアル・アカデミア・ガレーガの正会員となる。晩年の詩作、そして終焉。ガリシア語というもの。カバニージャスの詩のスタイル。ガリシアの宝。作品一覧。第二章詞華集。カバニージャスの作品から18を選び、ガリシア語から日本語に翻訳。さらに、詩にまつわるコラムを12篇書き上げて、イメージを感じ取るために写真を17葉挿入したものです。全109ページ。

本書の帯には、「カバニージャスの詩と音楽をあなたに」と記されています。これは、カバニージャスがいつも故郷を詠うことば A ti, meu Cambados（あなたに、わたしのカンパードス）から着想をえたものです。まさに、詩と音楽をあなたに、贈ります。

津田塾大学講師 浅香武和



『ガリシア 心の歌』
浅香武和 編訳
論創社 2,000円（税抜）



ヘッドオフィス

Tel.: +34 923 26 88 60
asia@donquijote.org



Instituto Cervantes
Centro Acreditado

アジア学生全体に占
める割合は10%以下

12ヶ国36都市に校舎がある
25以上のコース: インテンシブコース、
DELE対策コース、フラメンココース、
プレミアムコース、インターンシップなど
1週間から40週間まで、全レベル対象、
毎週月曜日スタート、少人数クラス
ホームステイ、シェアアパート、レジデンス

donQuijote
スペイン語コース

1986年創立

スペイン語を生きよう
スペイン、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、メキシコ

スペイン
ラテンアメリカ

アリカンテ/バルセロナ/グラナダ/ガッ/マドリッド/マラガ/マルベリャ/サラマンカ/セビリア/テネリフェ/バレンシア
アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/コスタリカ/キューバ/ドミニカ共和国/エクアドル/グアテマラ/メキシコ/ペルー

www.donquijote.org

ideal
education group


スペイン菓子工房
ドウルセ・ミーナ
 —無添加・手作り やさしい伝統菓子の店—
 茨城県守谷市ひがし野3-11-2
 TEL 0297-45-2740
<http://dulcemina.jp/>

イラスト デザイン
martín sánchez
 画家
 マルティン・サンチェス
www.jesusmartinsanchez.com
iesusangel@gmail.com

Yunoフラメンコ教室
神戸校・姫路校

Yuno
Flamenco

¡Vamos a bailar Flamenco!

徳田悠乃
Yuno Tokuda

TEL:090-2701-7952 / 078-797-4303
E-mail:tacon.tacon@docomo.ne.jp

フラメンコスタジオ ルイサ
 山内恵子フラメンコクラス
Estudio Luisa

優雅に、激しく、繊細に...
 フラメンコの魅力を感じてほしい。

これからフラメンコを始めようとしている方。
 興味はあるのだけれど、踊れるかどうか心配な方。
 以前習っていたけれど...ブランクのある方。
 どうぞお気軽にお問い合わせください。

初級～プロまで養成
 (直接指導)

生徒募集中!

無料体験レッスン実施中! ※予約制

ご予約・お問い合わせください
 フラメンコスタジオ ルイサ
 TEL./FAX.06-6561-0916
 H.P. 090-3675-5718
afrwg309@oct.zaq.ne.jp

◆詳しくは <http://luisa.littlestar.jp> をご覧ください。

スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを防ぐ語感を習得。課題文139の日本語・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。

〒162-0805 東京都新宿区矢来町106
 Tel. (03)3267-8531 <http://www.daisan-shobo.co.jp>

第三書房

第3回中級ビジネススペイン語特別講座

Segundo Curso Intermedio Especial de Español de Negocio

開講スケジュール

2014年10月10日(金)～11月28日(金)の毎週金曜日(計8回)

対象者

- ①現役のビジネスパーソンでビジネススペイン語力を高めることを目指す人
- ②スペイン語を学習している学生を含め将来スペイン語を使った仕事に就く予定または計画のある人
- ③スペイン語の基礎力があり、ステップアップした実践的なスペイン語学習を求める人

時間

19:00～20:30
 (90分)

場所

スペイン語教室ADELANTE

アクセス

JR大阪駅桜橋口から徒歩5分

定員

4～5人の少数クラス(最小実施人数3名)

講師

長年の海外駐在を含めビジネス経験豊富な
 日本人大学非常勤講師

講座の内容

- ①マクロ情報を含むビジネス関連情報の読み取り方(ビジネス用語、大きな数字の読み方、文章表現の理解)
- ②取引先、顧客に自社業務の概要(職制、役職名を含む)や自らの担当業務を説明する
- ③他社・市場情報の読み取り(年次報告書の読み方、簡単なP/Lなど)
- ④eメールによる社内外とのコミュニケーション

申込期限

2014年10月3日(金)

受講料

45,000円(申込時に一括払い込み)

詳細問い合わせはADELANTEへ
 電話:06-6346-5554
info@adelante.jp

難破船の残した友情 DEL NAUFRAGIO A LA AMISTAD

監督・脚本: コンサロ・ロブレド
音楽: エルンスト・レイスガル・制作: 2009年、パチエ株式会社
ドキュメンタリー 60分 スペイン語(日本語字幕) NTSC
税込価格: 4,104円

沈んだ宝物はまだ御前沖に眠っている?
1609年、スペインのガレオン船サンフランシスコ号は、フィリピンとメキシコを結ぶ貿易ルートを航海中、台風によって千歳岬御前沖で座礁。乗組員317人は、御前沖の村人たちに助け出された。しかし、サンフランシスコ号が横断していたはずの莫大な宝が引き上げられたという記録はない。はたして、御前沖の海の底には、400年前の宝がまだ眠っているのだろうか? その可能性をあらゆる側面から探るドキュメンタリー。

絶賛好評発売中!
お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!
ADELANTESHOP(アデランテショップ)
URL: www.adelanteshop.jp
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

CURSOS DE ESPAÑOL

～スペインとバスク文化の融合の街の伝統校～

- スペイン語一般コース
- スペイン語+インターンシッププログラム
- スペイン語+バスク料理
- スペイン語+サーフィン
- ホームステイ、ルームシェア、送迎サービス等

親切なスタッフと細かなサポート

一年を通して、短期留学から長期留学が可能

ラクンサ・インターナショナルハウス・サービスセンター



info@lacunza.com
www.lacunza.com



Costa de Valencia
escuela de español

すべてのレベルに対応可能
(初級～教師研修まで)、
1クラス最大8人まで、宿泊施設完備、
毎週アクティビティ有り、
DELE対応授業有り、
サッカー観戦&プレー、お祭り、
綺麗な海、暖かい気候、日本人生徒歓迎。

www.costadevalencia.com
info@costadevalencia.com
Av. Blasco Ibáñez, 66
E-46021 Valencia



確かな技術と音楽する心を育てる
吉川二郎ギター教室
初心者歓迎!

コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタールパ

花屋敷教室(宝塚市)
天満橋教室(大阪市)
東京教室(月1回)
静岡教室(月1回)
ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで
吉川二郎 検索


スペイン菓子
サン・オル

〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1
TEL 095-860-8180 FAX 095-860-8181

スペインタイルの給付け教室
& 手作りタイル販売
スペインタイルアート工房
Tokyo/Osaka/Valencia (Spain)

大阪市西区南堀江 1-20-23-1003
Tel & Fax 06-4390-6545
Email: spaintile@japan.email.ne.jp
<http://homepage1.nifty.com/spaintile/>

フラメンコスタジオ ミゲロン **MIGUELON**
Flamenco Studio

現役で活躍中のプロが講師をするフラメンコ教室

**ダンス(バイレ)クラス
ギター・歌・パルマクラス
生徒募集中!**

●石橋スタジオ 池田市井口堂 1-9-3 センチュリーショウエイ VII F
●梅田スタジオ 大阪市北区太融寺町 8-10 梅田高速ビル 604
※ダンス(バイレ)クラス 十三スタジオ(アルディエンテ)にて開講中!

Tel 072-760-4858
E-mail miguelon@nifty.com WEB <http://www.miguelon.jp/>

 **ESTUDIO Sampere** desde 1956

スペイン語コース

集中コース
DELE試験対策
ジュニア/シニアプログラム
専門スペイン語
大学入学準備
スペイン語教師養成
ボランティアプログラム
旅行とスペイン語学習

 WE ♥ SPANISH

CONTACT

T: +34 91 431 43 66
sampere@sampere.es
www.sampere.com
new webpage



LEARN SPANISH ABROAD
SPAIN · ECUADOR · CUBA





Europe's
Best Airline

ターキッシュエアラインズでスペインへ

成田・関空からイスタンブール経由で、スペイン6都市へのアクセスがより便利に。

日本⇄イスタンブール直行便時刻表

東京(成田空港)⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 51	12:55	18:10

イスタンブール⇒東京(成田空港)

便名	出発時刻	到着時刻
TK 50	17:10	11:30 +1

大阪(関西空港)⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 47	23:20	05:45 +1

イスタンブール⇒大阪(関西空港)

便名	出発時刻	到着時刻
TK 46	00:50	18:45

イスタンブール⇄スペイン6都市運航時刻表

マドリード

イスタンブール⇒マドリード

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1857	08:05	11:30
TK 1859	13:25	16:50
TK 1357	19:30	22:55

マドリード⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1858	12:25	17:40
TK 1860	17:50	23:05
TK 1358	23:55	04:45 +1

バルセロナ

イスタンブール⇒バルセロナ

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1853	08:00	10:40
TK 1855	14:00	16:35
TK 1851	21:00	23:35

バルセロナ⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1852	06:00	10:30
TK 1854	11:35	16:05
TK 1856	17:35	22:05

マラガ

イスタンブール⇒マラガ

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1305	09:40	13:10

マラガ⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1306	14:05	19:15

ビルバオ

イスタンブール⇒ビルバオ

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1315	08:40	11:50

ビルバオ⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1316	16:50	21:45

バレンシア

イスタンブール⇒バレンシア

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1301	10:10	13:05

バレンシア⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1302	14:05	18:50

＝サンティアゴ・デ・コンポステーラ＝ イスタンブール⇒サンティアゴ・デ・コンポステーラ

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1315	08:40	13:50

サンティアゴ・デ・コンポステーラ⇒イスタンブール

便名	出発時刻	到着時刻
TK 1316	14:45	21:45

※上記は冬季(10月末～3月末)スケジュールになります。 ※到着時刻の+1は翌日という意味です。 ※TK50,TK51はB777-300ER TK46,TK47,TK52,TK53はA330が使用機材です。
※スケジュールは予告なく変更される場合があります。 ※詳しいスケジュールはトルコ航空のホームページ(www.turkishairlines.com)をご覧ください。



スペイン語の本 & 雑貨

www.

adelante
shop.jp

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E. 試験対策本、絵本など
各種取り扱っています。送料全国一律280円
8,000円以上のお買い上げで送料無料!



スペイン語

ADELANTE

www.adelante.jp

Tel: 06-6346-5554

Fax: 06-6110-5122

email: info@adelante.jp

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分です自然なスペイン語をマスター
- ・定員6名までの少人数制グループレッスン
- ・ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ・振替ができるので忙しくても安心
- ・楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ・目的やペースに合わせて選べるコース
(一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・
スペイン語の本を読むコースetc.)

www.adelante.jp

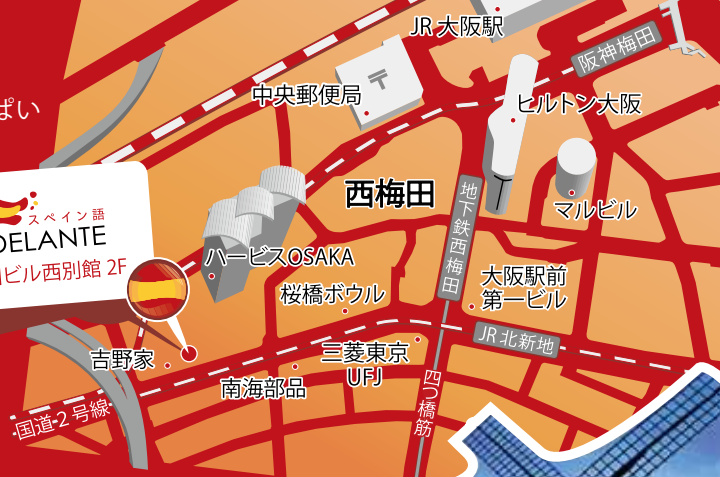
スペイン語教室 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122

E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

無料体験レッスン随時実施中!
お気軽にお問い合わせください。



www.spainryugaku.jp

スペイン留学.jp は
スペイン留学サポートのエキスパート。

【お問合せ】 TEL: 06-6346-5554 / email: info@spainryugaku.jp

スペイン & 中南米への留学相談、手続き代行無料サービス

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語+フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。
入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

- ・学校への出願サポート
- ・学生ビザ申請書記入のお手伝い
- ・留学費用の海外送金
- ・ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- ・空港出迎えサービスなど、
各種オプションサービスの依頼代行

